



函館短期大学  
保育学科  
講義要項 2018

保育学科			
教育目標	アドミッション・ポリシー(AP)	カリキュラム・ポリシー(CP)	ディプロマ・ポリシー(DP)
保育学科の教育目標	保育学科の入学受け入れの方針	保育学科の教育課程編成・実施の方針	保育学科の学位授与の方針
<p>以下の人材を養成することが保育学科の教育目標である。</p> <p>1. 子供の利益を尊重し、人として尊敬される豊かな人間性を身に付けた人材</p> <p>2. 子供の発達や心の動きに合わせた保育と保護者に対する相談支援ができる確かな専門性を身に付けた人材</p> <p>3. 子育ての環境について、地域と食育を関連付け考えることができる人材</p>	<p>保育学科の教育目標を理解し、以下の資質を有することを期待したい。</p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <p>1. 高等学校卒業相当の知識を有し、幼児教育や保育分野の専門的な学習に必要な基礎学力を身に付けている人</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b></p> <p>2. 幅広い教養と専門知識、高いコミュニケーション力を身に付けようとする人</p> <p>3. 本学の学園訓をよく理解し、自らがなすべきことを見出してボランティアなどの学外活動に積極的に参加しようとする人</p> <p>4. 自分の将来に向けて具体的な目標を持ち、他者に自分の考えを的確に表現できる人</p> <p><b>【主体的に協働する態度】</b></p> <p>5. 人の長所を大切に、明るくコミュニケーションできる人</p> <p>6. 子供が好きで、子供と子供を取り巻く環境の課題に関心を持ち、それらの解決に向けて主体的に他者と協働して学ぶ態度を有している人</p>	<p>保育学科の教育目標及びディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のようにカリキュラム(教育課程)を編成する。</p> <p>1. 短期大学士の学位に相応しい幅広い教養を身に付ける「基礎教育科目」並びに保育者に必要な専門的知識・技術を身に付ける「専門教育科目」を基盤とし、主体的、能動的に課題に取り組もうとする態度や意欲を形成する。</p> <p>2. 「基礎教育科目」の「社会人基礎論」及び「教養ゼミナール(SL)」を基軸として、「専門教育科目」の実習・演習を通して、コミュニケーション力と総合的な「社会人力」を形成する。</p> <p>3. 「専門教育科目」では、各種実習のほか「保育実践演習」を地域課題解決型学習(PBL)に位置づけ、加えてフィールド学習などを通して1つの課題を多面的に把握して考察できる能力を培う。</p> <p>4. 食育と音楽表現に重点を置き、より高い目標を持つ多様な学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを實踐できるように、保育士資格に加えて以下の資格取得も可能とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園教諭2種免許</li> <li>○社会福祉主事任用資格</li> <li>○食育指導士®</li> <li>○レクリエーション・インストラクター</li> <li>○介護職員初任者研修</li> </ul>	<p>保育学科の教育目標を達成し、卒業認定に必要な所定の単位を修得して、以下の資質と能力を持つ者に短期大学士(保育学)を授与する。</p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <p>1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識と音楽表現技術を有し、子供の成長を促すことができる。</p> <p>2. 地域の特性を的確に把握し、保育に反映させることができる。</p> <p>3. 保育者の社会的使命を理解することができる。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b></p> <p>4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。</p> <p>5. 身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。</p> <p>6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えることができる。</p> <p><b>【コミュニケーション力・社会人力】</b></p> <p>7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとすることができる。</p> <p>8. コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決しようとすることができる。</p> <p>9. 他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。</p>



保育学科 函館短期大学（平成 30 年度入学生）授業科目一覧

1年次開講科目

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
基礎教育科目	教養ゼミナール（S L）Ⅰ	通年	演習	1	卒	1
	社会人基礎論Ⅰ	後期	講義	1	卒	2
	日本国憲法	後期	講義	2	幼	3
	外国語（英語・仏語・中国語）	前期	演習	2	保 幼	4~6
	体育実技（球技・フィットネス）	前期	実技	1	保 幼	7~8
	保健体育	後期	講義	1	保 幼	9
	情報機器の操作Ⅰ	前期	演習	1	卒 幼	10
	情報機器の操作Ⅱ	後期	演習	1	卒 幼	11
	食育の基礎知識	前期	講義	2	食	12
	コンピュータリテラシーW	後期	演習	1	MW	13
	ボランティア実習Ⅰ	その他	実験実習	1		14
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	その他	その他	2		15
	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	その他	その他	2		16
	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	その他	その他	2		17
	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	その他	その他	2		18
コンソーシアム基礎教養Ⅴ	その他	その他	1		19	

2年次開講科目

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
基礎教育科目	教養ゼミナール（S L）Ⅱ	通年	演習	1	卒	20
	社会人基礎論Ⅱ	前期	講義	1	卒	21
	コミュニケーション・スキル	前期	演習	1		22
	コンピュータリテラシーE	後期	演習	1	ME	23
	コンピュータリテラシーP	後期	演習	1	MP	24
	ボランティア実習Ⅱ	その他	実験実習	1		25
	コンソーシアム基礎教養Ⅵ	その他	その他	2		26
	コンソーシアム基礎教養Ⅶ	その他	その他	2		27
	コンソーシアム基礎教養Ⅷ	その他	その他	1		28
	コンソーシアム基礎教養Ⅸ	その他	その他	1		29
	国際交流	後期	実験実習	1		30
	文化交流	後期	実験実習	1		31

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
専門教育科目	音楽Ⅰ	通年	演習	2	卒保 幼レ	32
	図画工作Ⅰ	通年	演習	2	卒保 幼	33
	社会福祉	前期	講義	2	保 主	34
	社会的養護	後期	講義	2	保	35
	児童家庭福祉	後期	講義	2	卒保 主	36
	保育原理	前期	講義	2	保 主	37
	子どもの保健Ⅰ	通年	講義	4	保	38
	乳児保育	前期	演習	2	保	39
	教職概論	前期	講義	2	保 幼	40
	教育原理	前期	講義	2	保 幼 主	41
	教育心理学	後期	講義	2	卒保 幼	42
	家庭支援論	後期	講義	2	保	43
	健康	前期	演習	1	保 幼レ	44
	環境	前期	演習	1	保 幼	45
	表現	前期	演習	1	保 幼レ	46
	保育内容（健康）	後期	演習	1	[保選] 幼レ	47
	保育内容（環境）	後期	演習	1	[保選] 幼	48
	保育内容（表現）	後期	演習	1	[保選] 幼レ	49
	音楽基礎	前期	演習	1	[保選][幼選]	50
	造形表現基礎	前期	演習	1	[保選][幼選]	51
	保育内容総論	後期	演習	1	保	52
	保育実習指導Ⅰ	通年	演習	2	保	53
	子どもの保健Ⅱ	後期	演習	1	保	54
	人間関係	前期	演習	1	保 幼	55
	言葉	前期	演習	1	保 幼	56
	保育内容（人間関係）	後期	演習	1	[保選] 幼	57
	保育内容（言葉）	後期	演習	1	[保選] 幼	58

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	掲載ページ
専門教育科目	幼児体育	前期	演習	2	保 [幼選]レ	59
	相談援助	前期	演習	1	保 主	60
	子どもの食と栄養	前期	演習	2	保	61
	臨床心理学	前期	演習	2	[保選]	62
	障害児保育	前期	演習	2	保	63
	社会的養護内容	後期	演習	1	保	64
	発達心理学	後期	演習	1	保 [幼選]	65
	保育相談支援	後期	演習	1	保	66
	総合表現	後期	演習	1	保 [幼選]レ	67
	教育課程総論	前期	講義	2	保 幼	68
	教育の方法と技術	前期	講義	1	幼	69
	教育相談	後期	演習	1	幼	70
	教育経営論	前期	講義	1	幼	71
	幼稚園教育実習事前指導	その他	演習	1	幼	72
	幼稚園教育実習事後指導	その他	演習	1	幼	73
	幼稚園教育実習	その他	実験実習	4	幼	74
	幼児理解	前期	演習	1	幼	75
	音楽応用	後期	演習	1	[保選][幼選]	76
	保育実習指導Ⅱ	その他	演習	1	[保実習選]	77
	保育実習指導Ⅲ	その他	演習	1	[保実習選]	78
	保育実習Ⅰ	その他	実験実習	4	保	79
	保育実習Ⅱ	その他	実験実習	2	[保実習選]	80
	保育実習Ⅲ	その他	実験実習	2	[保実習選]	81
	保育実践演習	後期	演習	2	卒保 幼	82
	レクリエーション指導法	後期	講義	2	レ	83
	レクリエーション現場実習	その他	実験実習	1	レ	84
	音楽Ⅱ	前期	演習	2	[保選][幼選]	85
	図画工作Ⅱ	後期	演習	2	[保選][幼選]レ	86
国語	前期	講義	2	[保選][幼選]	87	

【注】：（1）履修登録を申告する授業科目に関しては自身で印を記入し、単位数の合計を確認すること。

（2）必修区分欄の「卒」「保」「[保実習選]」「[保選]」「幼」「[幼選]」「レ」「食」「MW」「ME」「MP」「主」は次のとおりである。

卒・・・本学における卒業必修科目  
 保・・・保育士資格必修科目  
 ○但し、[保実習選]・・・「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」を修得  
 [保選]・・・「保育内容(健康)/1単位」,「保育内容(環境)/1単位」,「保育内容(表現)/1単位」,  
 「音楽基礎/1単位」,「造形表現基礎/1単位」,「保育内容(人間関係)/1単位」,  
 「保育内容(言葉)/1単位」,「臨床心理学/2単位」,「音楽応用/1単位」,「音楽Ⅱ/2単位」,  
 「図画工作Ⅱ/2単位」,「国語/2単位」の中から6単位を修得  
 幼・・・幼稚園教諭二種免許必修科目  
 ○但し、[幼選]・・・幼稚園教諭二種免許選択科目  
 レ・・・レクリエーション・インストラクター資格必修科目  
 食・・・食育指導士®  
 MW・・・マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Word)  
 ME・・・マイクロソフト オフィス スペシャリスト(Excel)  
 ME・・・マイクロソフト オフィス スペシャリスト(PowerPoint)  
 主・・・社会福祉主事任用資格取得にかかわる科目  
 これらの科目のうち3科目以上を修得することが資格取得の条件となる

## 基礎教育科目

### 1 年次配当科目

教養ゼミナール (S L) I	1
社会人基礎論 I	2
日本国憲法	3
外国語 (英語)	4
外国語 (仏語)	5
外国語 (中国語)	6
体育実技 (球技)	7
体育実技 (フィットネス)	8
保健体育	9
情報機器の操作 I	10
情報機器の操作 II	11
食育の基礎知識	12
コンピュータリテラシー W	13
ボランティア実習 I	14
コンソーシアム基礎教養 I	15
コンソーシアム基礎教養 II	16
コンソーシアム基礎教養 III	17
コンソーシアム基礎教養 IV	18
コンソーシアム基礎教養 V	19

### 2 年次配当科目

教養ゼミナール (S L) II	20
社会人基礎論 II	21
コミュニケーション・スキル	22
コンピュータリテラシー E	23
コンピュータリテラシー P	24
ボランティア実習 II	25
コンソーシアム基礎教養 VI	26
コンソーシアム基礎教養 VII	27
コンソーシアム基礎教養 VIII	28
コンソーシアム基礎教養 IX	29
国際交流	30
文化交流	31

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10110
科目	基礎教育科目	科目名	教養ゼミナール (SL) I		
配当年次	1年	期間	通年		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数
教員	保育学科教員				
必修区分	卒				
教育職員免許法に基づく分類					
該当科目コード	DP4.5, 6, 7, 8, 9				

**授業目標**  
 本学の建学の精神である学園三訓の理念に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによつて、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。

**到達目標**  
 1 日常生活において、感謝の念を常に抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者を労わる人間性を備えることができる。  
 2 社会生活全般において、協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円満な人間関係を築くことができる。  
 3 専門職業人として、自律した生活を実践することができる。

授業外に行うべき学習 (予習・復習・準備学習)  
 ・各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。

**標準学修時間の目安**  
 ・1回の講義あたり予習・復習を含め1時間の学修が必要である。

**課題 (試験やレポート等) のフィードバック**  
 ・コース別、合同SLでは、感想文の提出があり、SL担当教員が点検後返却する。

**評価方法**  
 ・学年末において、他の授業科目の評価方法に準じて、合格・不合格の判定および学習評価を行う。なお、学期末の学習評価及び評点による成績評価は行わない。

**その他**  
 ・必要な事項は、担当教員の指示に従うこと。

講義計画	
1	合同SL (建学の精神について) クラス合同 (短大祭準備)
2	個別SL (前期ガイダンス、SL長決定) 合同SL (秋の交通安全講習)
3	個別SL (学内施設見学等) クラス合同 (短大祭準備)
4	コース別SL (各担当教員) ※地域の課題の発見 合同SL (学生生活について)
5	クラス合同SL (スポーツ大会について) 個別SL (SL担当教員)
6	合同SL (献血理解について) コース別SL (各担当教員) ※地域の課題の発見 コース別SL (各担当教員) ※地域の課題解決にむけた実践の検討
7	個別SL (SL担当教員) コース別SL (各担当教員) ※地域の課題解決にむけた実践の検討
8	クラス合同 (つどいの広場見学) クラス合同SL (スポーツ大会について)
9	合同SL (夏の交通安全講習) 合同SL (護身術について)
10	コース別SL (各担当教員) ※地域の課題解決を目的とした情報収集・討論 個別SL (SL担当教員) 合同SL (就職について1)
11	個別SL (SL担当教員) 個別SL (SL担当教員) 合同SL (冬の交通安全講習)
12	コース別SL (各担当教員) ※地域の課題解決を目的とした情報収集・討論 合同SL (就職について2)
13	合同SL (性教育講座) 個別SL (SL担当教員)
14	合同SL (性教育講座)
15	合同SL (性教育講座)

使用教科書		
No	教科書名 著者名	出版社名 ISBN
1	改訂版 保育の基本用語 長島和代 編	わかば社 978-4-907270-04-9
2		
3		
4		
5		

使用教科書備考  
なし

参考書  
なし

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10120
科目	基礎教育科目	科目名	社会人基礎論Ⅰ		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス
教員	加納 洋人/林原 和哉				
必修区分	卒				
教育職員免状法に基づく分類					
該当科目コード	DP4.5, 6, 7, 8, 9				

授業目標	<p>社会で実際に働くうえで必要となる「社会人力」や教養を身につける。学修方法を習得する。</p> <p>①短大で学ぶ上で必要なレポート等の書き方、学生生活における時間管理などの学修方法を習得する。</p> <p>②「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」、「協働して働く態度」の重要性を理解する。</p> <p>③地域社会が求める思いやり、優しさ、協調性、マナー、コミュニケーション能力などを身につける。</p> <p>④現代社会を自分で捉える能力と職業人としての社会的基礎知識を身につける。</p>
到達目標	<p>①レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼンテーション技法等を習得する。</p> <p>②コミュニケーションの基本となるあいさつ、「ボウレンソウ」、ビジネスマナー等を身につける。</p> <p>③新聞、テレビのニュースや報道番組等に関心を持ち情報を自分で集めることができるようにする。</p> <p>④就職活動で必要なエントリーシート等が書け、就職試験等で自分の意見を言えるようにする。</p> <p>⑤「ブログレスシスター」の記入をもとに、自身の現在の「人間的な力」を理解し、力を伸ばして行くことができる。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	<p>普段から新聞を読み、テレビの報道番組等を見て現代社会が抱える課題について考えておく。日記などを書くことで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。配布プリントを読んで復習する。</p>
標準学修時間の目安	1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。
課題（試験やレポート等）のフィードバック	小テストに関しては、採点后、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介します。
評価方法	教科書に基づく小テスト（30%）、作文等による思考力・表現力の評価（30%）、課題・レポート等による理解力の評価（30%）、授業の態度、取り組み姿勢（10%）を数値化して、総合評価する。
その他	
実務経験者などの外部講師による特別講話を行う場合がある。	

講義計画					
1	高校生と短大生の違い。社会人とは。なぜ働くのか。キャリアをどう形成するのか。(加納、林原)	16			
2	地域社会が求める能力は何か。やさしさや思いやり等「人間的な力」の重要性について。(林原)	17			
3	「人間的な力」を知ろう。ブログレスシスターとは何か。同シスターの記入。(加納、林原)	18			
4	短大で学ぶ上で必要な能力とは。レポート、作文等の書き方、プレゼンテーションについて。(加納)	19			
5	「時間意識・目標意識・協調意識」など仕事の基本となる8つの意識について。(特別講師と教員)	20			
6	チームワークのためのコミュニケーションを支えるビジネスマナーの基本。(特別講師と教員)	21			
7	指示の受け方と報告・連絡・相談、わかりやすい話し方と聞き方のポイント。(特別講師と教員)	22			
8	現代社会とは何か。新聞の読み方、情報の収集の仕方、考え方。(加納)	23			
9	新聞記事から現在の政治課題、国際問題等の基本を理解する。基礎的時事用語の解説。(加納)	24			
10	「起承転結」の構成で作文を書いてみよう。思考力、表現力をどう養うか。(加納)	25			
11	将来をイメージして就職活動の方針を決めよう。地域・業種・職種等をどう選択するか。(林原)	26			
12	法人・企業へのアプローチ方法、ネットの活用、電話のかけ方、説明会への参加の仕方など。(林原)	27			
13	個人面接における基本的マナーと会話力について。(林原)	28			
14	集団面接やグループディスカッションで試される力について。(林原)	29			
15	半年後の「人間的な力」を記録しよう。ブログレスシスターで、成長を確認する。(林原)	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	2018B 3級公式テキスト	職業教育キャリア教育財団	日本能率協会	978-4-8207-2628-9	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
2018年版 B 検ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト 職業教育・キャリア教育財団 監修 日本能率協会マネジメントセンター 出版					
参考書					
なし					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10070
科目	基礎教育科目	科目名	日本国憲法		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	弘末 和也				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DPI、3、7				

授業目標	<p>日本国憲法の原理・原則を理解する。          様々な人権問題についての学習を通じ、人権意識・感覚を身につける。          現代的な人権感覚を身につけることは、多様な子どもや保護者と関わる保育者にとって必須である。</p>
到達目標	<p>①それぞれの人権規定が何を保障しているのか、なぜ保障しなければならないのかを理解する。          ②憲法は個人の権利を保障するために公権力を制限する法であることを理解する。          ③権力分立の仕組みや必要性を理會する。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
予習は、授業日までに教科書の指定箇所を読んでおくこと。 復習は、授業時間内に配布するレジュメに示された問題を授業内容を振り返りながら解くことにする。	
標準学修時間の目安	
1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
定期試験後に再試験対象者へのみ答案用紙を返却する。	
評価方法	
定期試験や学習態度等を考慮し、総合的に評価する。	
その他	
日本国憲法の全文をプリントアウトしたものを初回の講義で配布する。 講義毎にレジュメを配布する。	

講義計画					
1	立憲主義	16			
2	国民主権と民主主義	17			
3	平和主義	18			
4	権力分立と立法権（国会）	19			
5	行政権（内閣）と司法権（裁判所）	20			
6	人権総論と人権享有主体性	21			
7	平等原則	22			
8	精神的自由権① （思想・良心の自由、学問の自由）	23			
9	精神的自由権② （表現の自由）	24			
10	参政権	25			
11	経済的自由権	26			
12	人身の自由	27			
13	社会権	28			
14	受益権と新しい人権	29			
15	地方自治、憲法改正、憲法の私人間効力	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	「伊藤真の憲法」第5版	伊藤真	日本評論社	978-4-535-52040-0	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
「伊藤真の憲法」第5版（講義再現版）を使用する。					
参考書					
なし					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10071
科目	基礎教育科目	科目名	外国語(英語)		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独
教員	シマダ レナーテ				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当ガイダンス項目番号	DP8				

授業目標	この講義では、英語の4つの主要スキルである、リーディング、ライティング、ヒアリング、スピーキングの能力を養う。特に、英語でのコミュニケーション能力を高めるために、ヒアリングとスピーキングを正しいイントネーションで行えるようにすることに重点を置く。簡単な日常会話、ダイアログ形式の練習、置き換えや変形の練習などを行い、学生から、これららの練習のアイデアを出してもらおう。また、実際に英語を話す時間が多くなるように、学生同士での会話の練習も行う。
到達目標	1. テキストの英文を正しく読むことができ、内容を把握できる。 2. 教員が話す英語の内容を正しく聞き取ることができる。 3. テキストの文章を正しいイントネーションで発音することができる。 4. 学生同士で簡単な日常会話ができる。
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	
授業で学習した内容について、確認し、考えて、次の授業に出席すること。	
標準学習時間の目安	
今回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。	
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
定期試験後、再試験対象者へのみ解答を開示する。	
評価方法	
筆記試験、宿題提出、授業態度を総合して評価する。	
その他	
テキストは、プリントで対応する。	

講義計画				
1	オリエンテーション、筆記課題、自己紹介	16		
2	クラスで親密になる(1) (クラスメートにインタビュアー)	17		
3	クラスで親密になる(2) (前回のインタビュアーの報告、ディクテーション)	18		
4	形容詞、否定形	19		
5	はい・いいえで答える (肯定形の質問、否定形の質問)	20		
6	単数形・複数形 反意語、クイズ (自然な組み合わせ)	21		
7	仕事で(1) (a・anの意味)	22		
8	仕事で(2) (ディクテーション、反意語)	23		
9	ハンドアウトクイズ (自然な組み合わせ、家族関係)	24		
10	家族の写真を持参して、クラスに紹介する	25		
11	英語での地理(1) (国の名前、国民の名前)	26		
12	英語での地理(2) (市の名前、話される言語)	27		
13	ディクテーション、気候について話す	28		
14	職業、否定の回答	29		
15	ナオミはビルと出会う (教材の意味を読み取る、教材の内容を書き取る)	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
英語辞書(高校時代等に使用した英和辞典で良い)				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10071
科目	基礎教育科目	科目名	外国語(仏語)		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独
教員	竹花 和晴				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DP8				

授業目標	フランス語はヨーロッパ諸語の中で最も重要な言語の一つであります。また、全世界的な学術と外交用語でもあります。文化や経済等の国際交流が発展するなかで、フランス語は益々その重要性を増しつつあります。本授業は保育学科の学生を対象としており、フランス、カナダ、スイス、ベルギー、アフリカ等のフランス語圏諸国で現在話されている生きた会話を学習すると共に、調理レシビ(recipe)や文獻の読解への道筋を聞くことの契機にしたいと考えております。
到達目標	1. フランス語独特の発音を習い、実際に発音できる。 2. フランス語独特の表記を習い、書く事ができる。 3. フランス語で簡単な会話が読める。 4. フランス語料理のレシビを読むことができる。
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	
授業で学習した内容について、繰り返し声を出して復習する。次の授業に出席する前に次の単元の分らない単語を調べておくこと。	
標準学習時間の目安	
1回の講義あたり2時間の予習と2時間の復習が必要となる。	
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
定期試験後に、模範解答を掲示する。	
評価方法	
講義への参加姿勢と学期末の試験を総合して評価する。	
その他	
外国語習得の要諦は、第一にためまざる学習の継続であるとおもわれる。そして、学習したことを、理解し、応用できることであると考えると考えられる。	

講義計画					
1	フランス語の歴史、現在のフランス語、日本におけるフランス語等について	16			
2	フランス語独特の発音や表記等について	17			
3	フランス語独特の発音や表記、数字の発音	18			
4	教科書第1課の規則動詞と助動詞を伴う会話	19			
5	教科書第2課の「旅先のホテルでの会話」(疑問文の文例等)	20			
6	教科書第2課の「旅先のホテルでの会話」(フロントでの会話例等)	21			
7	教科書第3課の「フランスの生活」と不規則動詞等について	22			
8	教科書第3課の「フランスの生活」と数と伴う会話	23			
9	教科書第4課の「観光と乗り物」(上)に伴う会話	24			
10	教科書第4課の「観光と乗り物」(下)と否定文等について	25			
11	副教材「フランス料理のレシビ」1(原文の読解、料理の材料と分量)	26			
12	副教材「フランス料理のレシビ」2(原文の読解、料理の準備文例)	27			
13	副教材「フランス料理のレシビ」3(原文の読解、調理の指示・命令形例)	28			
14	副教材「フランス料理のレシビ」4(原文の読解、調理のテーマレセプション)	29			
15	教科書と副教材を活用した全て学習の点検(まとめ)	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	やさしく学ぶ旅のフランス語	中村敦子	第三書房	978-4-8086-2200-8	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
「LE FRANCAIS POUR LE VOYAGE」(やさしく学ぶ旅のフランス語) 3訂版					
参考書					
「仏和辞書」中または小辞典(出版社は随意)					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10071
科目	基礎教育科目	科目名	外国語(中国語)		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独
教員	東出 隆司				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DP8				

授業目標	一つの外国語を学ぶことは、一つの新しい扉を開けることと同じと言えます。その国の言語を学ぶことは、その国の文化をも学ぶことにもなります。隣国である中国の言語を学ぶことはとてども意義あることだと思えます。この中国語の学習を通して、日本文化の源である中国の文化に触れながら、学んだ中国語を使って、自分の紹介ができていく程度の語彙や表現法、発音を身につけることを目標にします。
到達目標	学んだ中国語を使っての自己紹介ができるレベルを目指します。その為には、それに必要は語彙、表現方法、そして何よりも相手に正しく伝わる発音方法などの習得を目標とします。
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	中国語の音を捉えるうえで、最初の段階ではできるだけ多くその音を耳にすることが必要です。コンピュータでのそのうたサイトを利用したり、NHKの中国語講座(ラジオ・テレビ)を視聴して、聴く機会を自ら多く持つよう努めて下さい。
標準学習時間の目安	毎週1回の講義にあたりその週のうちに1時間程度の予習を、1時間程度の復習時間を目指します。毎週NHKのテレビまたはラジオの中国語講座を視聴、テキスト付属のCDを聴くことに努めて下さい。
課題(試験やレポート等)のフィードバック	自分で自分のことを表現するための、テキストでは知りえない語句などは、図書館やネットを使って調べてください。
評価方法	期末最終講義日に、口試(口述テスト)を実施。自己紹介を中国語で既定の行数以上の表現を求めます。その際は、発音の正確さ、四声、そり舌音の使い方、文の構成、使用語彙の多さなどが試されます。筆記(筆記試験)は別に、ピンイン・簡体字・語彙などが試され、二つの成績を合わせて評価します。
その他	函館大学の図書館は、中国関係書籍や参考資料が充実しています。時間があたらこれらも手に取って見てみて下さい。また、中国からの留学生もいますので、機会があたら声をかけ交流してみましよう。コンピュータ上には中国語学習の為の様々なサイトや情報があります、参考にして下さい。

講義計画				
1	中国語全体の特徴と構成。(プリント)	16		
2	中国語の発音の特徴である四声。(テキスト発音編)	17		
3	日本に無い音の発音。(テキスト発音編)	18		
4	発音のチェックと注意点。(DVD等映像を使つての復習)	19		
5	自分の名前や、基本的な挨拶。(テキスト第1課)	20		
6	同じ漢字でも発音によって異なる読み。(テキスト第2課)	21		
7	場所代名詞と存在文、方位詞。(テキスト第3課)	22		
8	年・月・日や時間など数字に関する表現。(テキスト第4課。)	23		
9	数字を使つての自分の一日の行動表現。(テキスト第4課)	24		
10	家族の紹介の仕方。	25		
11	趣味や自分の好きなもの言う表現。(テキスト第7課)	26		
12	自分の希望を相手に伝える表現。	27		
13	進行形や比較の表現法。(テキスト第8課)	28		
14	様々な補語を学び学んだ語句と組み合わせの練習。	29		
15	まとめ これまで学んだ語彙を使い自分のことを中国語表現し相手に伝える。	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	楽しい中国語	山下輝彦	朝日出版社	987-4-255-45271-5
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
発音編と課文に分かれてます。発音編に3コマ程度授業を使います。				
参考書				
NHKラジオ中国語テキスト「まいにち中国語」。テレビ中国語テキスト「テレビで中国語」				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10072
科目	基礎教育科目	科目名	体育実技(球技)		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独
教員	小越 康雄				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当ガイダンス項目番号	DPI, 8, 9				

授業目標	3種類の球技(バドミントン・バスケットボール・バレーボール)を通して、それぞれの技術の向上と体力の維持増進を図り、さらに、他者とのコミュニケーション能力を養うことを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目特有の動きを身につけることができる。</li> <li>・各種目のルールを説明することができる。</li> <li>・積極的に参加することにより運動量を増やすことができる。</li> <li>・コミュニケーション能力を高めることができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)
バドミントン・バスケットボール・バレーボールについて普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通すこと。	
標準学習時間の目安	
1回の講義にあたり1～2時間の自主学習が望ましい。	
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
個々人の習熟度により、目標に達していない場合は、課題を課し、積極的にクリアするように技術向上に努めさせる。	
評価方法	
実技テスト及び授業参加態度により総合的に評価する。	
その他	
運動靴、ジャージ着用	

講義計画			
1	オリエンテーション(体育実技における留意点の説明)・からだ慣らし	16	
2	バドミントン①(ラケットの握り方、シャトルの打ち方、ルール説明)	17	
3	バドミントン②(ストローク、クリアー、ドライブ、ミニゲーム)	18	
4	バドミントン③(ストローク、サービス、ハーフコートシングルスゲーム)	19	
5	バドミントン④(シングルスゲーム、ダブルスのゲーム)	20	
6	バスケットボール①(ボール慣れ、パス、ドリブル、シュート、ルール説明)	21	
7	バスケットボール②(ランニングパス、ドリブルシュート、ハーフコートの3対3)	22	
8	バスケットボール③(各種パス・ドリブル・シュート、ハーフコートのゲーム)	23	
9	バスケットボール④(チーム戦術をもとにしたゲーム)	24	
10	バスケットボール⑤(リーグ戦形式によるゲームの計画と運営)	25	
11	バレーボール①(ボール慣れ、パス、レシーブ、サーブ、ルール説明)	26	
12	バレーボール②(パス、レシーブ、サーブ、アタック)	27	
13	バレーボール③(レシーブ、トスからアタック攻撃)	28	
14	バレーボール④(チーム戦術をもとにしたゲーム)	29	
15	バレーボール⑤(リーグ戦形式によるゲームの計画と運営)	30	
使用教科書			
No	教科書名	著者名	出版社名 ISBN
1	なし	-	-
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
なし			
参考書			
なし			

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10072
科目	基礎教育科目	科目名	体育実技(フィットネス)		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独
教員	原崎 千鶴子				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DPI-,8,9				

**授業目標**  
 有酸素運動で心臓や肺の働きを改善し運動不足を解消させる。改善し向上させる。  
 正しいフォームでレジスタンス運動を行い、骨や筋の働きを回復させる。  
 関節、靭帯に負担をかけない正しいストレッチ方法を学び柔軟性を回復させる。

**到達目標**  
 1. 日常生活でも活用できる立位、座位、仰臥位などの正しいフォームを身につけられる。  
 2. 安全で楽しく効果的な有酸素運動(エアロビックス等)が体感できる。  
 3. 目的に合った筋力トレーニングを安全で効果的に実践でき、障害予防に役立てられる。  
 4. 正しい姿勢でのストレッチングの方法を学ぶ。

**授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)**  
 復習：運動習慣を身に付けるために、授業で体験した運動を各自のライフスタイルにあわせて適時取り入れること。  
 予習：習得したい自身に合ったエクササイズをあらかじめ決めて提出すること。

**標準学習時間の目安**  
 1回の講義にあたり1～2時間の自主学習が望ましい。

**課題(試験やレポート等)のフィードバック**  
 各自の習得度に合わせ、課題を課し積極的にサポートしクリアできるように努めさせる。

**評価方法**  
 授業態度及び実技テストによる総合点

**その他**  
 ジャージを着用、シューズを履く  
 長い髪はまとめる

講義計画	
1	からだばぐしと簡単ストレッチング
2	疲労回復メニューエクササイズの実習
3	筋バランスを考慮した筋力トレーニングと柔軟性の回復と向上のストレッチングの演習
4	安全で効果的な正しいウォーキングとジョギングのフォームの習得
5	エアロビックスエクササイズ(低強度)フリースタイル
6	エアロビックスエクササイズ(低強度)コンビネーションスタイル
7	エアロビックスエクササイズ(中等度)と下肢レジスタンストレーニング
8	エアロビックスエクササイズ(中等度)と体幹トレーニング
9	エアロビックスエクササイズ(中等度)と上肢レジスタンストレーニング
10	コアグラフィター(振り付け)の作成方法
11	下肢と上肢のスムーズな動きのつなぎとバリエーション
12	コアグラフィター(振り付け)リズムチェンジ選択
13	コアグラフィター(振り付け)ローインパクト&ハイインパクトの選択
14	コアグラフィター(振り付け)上肢の動きのバリエーションの選択
15	グループ別実演発表

使用教科書			
No	教科書名	著者名	出版社名
1	なし	-	-
2			
3			
4			
5			

使用教科書備考  
 なし

参考書

フィットネス基礎理論



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10130
科目	基礎教育科目	科目名	情報機器の操作Ⅰ		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	渡辺 真保				
必修区分	卒幼				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP1				

授業目標

多くの職場、学校、家庭で利用されているMicrosoft Wordの基本～中級レベルの操作方法を習得すると同時に、ビジネス文書の体裁を算え、パソコンを使用して、社会人として適切な文書・資料を作成することができるようになることを目標としています。

到達目標

- ・Windowsの基本的な操作を行うことができる。
- ・データを正確に、ある一定以上のスピードで入力できる。
- ・表、図、イラスト、写真を含めた文書を体裁よく作成できる
- ・ビジネス文書の体裁を電え適切な社内文書・社外文書を作成できる
- ・インターネットを利用して情報の検索・収集ができ、安全に利用することができる

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

- ・授業で学習した操作を復習し、質問がある場合は、次回の授業までにまとめておくこと。
- ・毎回課題を出すので、完成させておくこと。
- ・効率よく文書を作成するには、ある程度の文字入力のスピードが必要なので、各自タイピング練習をすること。
- ・次回の授業でカバーする箇所を目を通しておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題提出後の授業でコメントを付した課題を返却する。

評価方法

定期試験、課題提出、授業態度を考慮し総合的に評価します。

その他

学習内容を定着させるために、ほぼ毎回課題を出します。授業の時だけではなく、電子メールでの質問も受け付けますので、積極的に質問し解決するようにしてください。

講義計画				
1	Windows基本操作、タッチタイピングの基本 インターネット検索、文字変換、辞書機能、保存	16		
2	文章の入力 印刷、文字・文の複写・削除・移動	17		
3	表の作成と編集 画像・テキストボックスの挿入と編集	18		
4	演習問題 オンライン画像・ワードアートの挿入と編集	19		
5	図形描画、スクリーンショットの挿入と編集 スマートアートの挿入と編集	20		
6	段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 はがき印刷、差し込み印刷	21		
7	グラフの挿入、ページ区切り、PDF変換 総復習・演習問題	22		
8	総復習・演習問題	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	30時間Word2016	-	実教出版	978-4-407-34020-4
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
30時間でマスター Word2016				
参考書				
リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office活用術2016対応 演習問題全173 NOA出版				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10230
科目	基礎教育科目	科目名	情報機器の操作Ⅱ		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	山崎 幸路				
必修区分	卒幼				
教育職員免許法に基づく分類	66条の6に定める科目				
該当ガイダンス項目番号	DP1				

**授業目標**

パソコンをはじめとする情報機器は、資料を作成し、情報を発信するための道具です。パソコン操作による資料作成、分析加工を学習します。総合的な操作の考え方と実務で要求されていることを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶことが授業の目標です。

**到達目標**

- データの編集、表示形式と罫線などのレイアウト編集ができる。
- 絶対参照を使った式の作成と編理関数の条件複合作成ができる。
- 適切なグラフを選択し、効果的に訴求効果のあるグラフを作成できる。
- データ抽出と集計の方法を学習し、データベースの基本を把握し、簡単な集計ができる。
- VLOOKUP関数、データベース関数を利用して資料分析ができる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

【予習】事前配布するプリントとテキストとを併読し、テキストに必要な事項を書き込みます。操作内容と用語をおおまかに理解します。  
【復習】テキストと書き込みを読み、パソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された操作演習して課題を作成します。

**標準学習時間の目安**

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である

**課題（試験やレポート等）のフィードバック**

課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。

**評価方法**

実務的成果物の課題作成能力を評価する。授業態度・課題取り組み姿勢も評価対象として重視する。

**その他**

まだパソコンに慣れていない学生から十分に操作知識とスキルのある学生まで、ゆっくりに速度で高度な内容を含めて学習していく。適宜ノートを取ることに。適宜遅刻と欠席をしないように。

講義計画				
1	ファイル管理、データ入力、◇入力測定 形式入力、グラフ作成とレイアウト	16		
2	連続データ、多量のグラフ作成とレイアウト 基本的関数の効率的入力と編集レイアウト	17		
3	日付と時刻の応用入力、オートカルク IF関数など、セル番地の絶対参照	18		
4	セルの絶対参照、文字の属性◇入力測定 ROUND関数、端数処理の問題点	19		
5	小テスト、論理関数の条件複合作成、軸ラベル設定 スパークライン、グラフ作成	20		
6	条件付き書式、データババーのルール設定 円グラフ複合作成	21		
7	ファイルタ、VLOOKUP関数 ◇入力測定 実務的複合作成演習	22		
8	実務的複合作成試験演習	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	30時間 Excel2016	-	実教出版	978-4-407-34021-1
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
30時間でマスター Excel2016				
参考書				
実践ドリルで学ぶ Office活用術 Word・Excel・PowerPoint 2016対応				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10152
科目	基礎教育科目	科目名	食育の基礎知識		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	清水 陽子				
必修区分	食				
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス項目番号	DPI_4				

授業目標

栄養に関する基本的な知識を習得して、健康維持のために正しい選択力や知識を身に付ける。また、現代の子どもの食事情について現状や課題を理解する。保育者として子どもの食生活や栄養について学んだ知識を保育の現場で実践し発展させることができる力を養う。

到達目標

1. 5大栄養素の働きを説明できる。
2. 消化・吸収のしくみについて説明できる。
3. 食習慣と健康の関係を説明できる。
4. 健全な食生活を営むための食に関する正しい選択力や知識を身に付けることができる。
5. 食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

事前学習：次回の講義内容を確認し、関連図書などを読んでおくこと。また、子どもの食事について課題意識を持って意欲的に受講すること。  
事後学習：講義内容を振り返りながら重要な専門用語を覚えておくこと。

標準学習時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者へのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。

評価方法

定期試験の成績70%、学習姿勢10%、課題レポート20%により総合評価する。

その他

必要な資料等、プリントを配布する。

講義計画			
No	教科書名	著者名	ISBN
1	なし	-	-
2			
3			
4			
5			
16	オリエンテーション（授業目標と講義計画の確認、授業の進め方等について）		
17	栄養素の基礎知識①（たんぱく質）		
18	栄養素の基礎知識②（脂質）		
19	栄養素の基礎知識③（炭水化物）		
20	栄養素の基礎知識④（ビタミン・ミネラル）		
21	消化と吸収のしくみ①（口・胃）		
22	消化と吸収のしくみ②（小腸・大腸）		
23	食習慣と健康		
24	3つのお皿でバランス献立を考える		
25	おやつのととり方を考えよう		
26	子どもの食の問題と気になる行動		
27	食品添加物を考えよう		
28	季節・郷土とともにある行事食		
29	地域や家庭と連携した食育の展開		
30	学びの交流、まとめ		
使用教科書			
No	教科書名	著者名	ISBN
1	なし	-	-
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
なし			
参考書			
心・栄養・食べ方を育む 乳幼児の食行動と食支援 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一/監修 医歯薬出版			

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10330
科目	基礎教育科目	科目名	コンピュータリテラシーⅡ		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	山崎 幸路				
必修区分	NW				
教育職員免許法に基づく分類					
該当科目コード	DP1	項目番号	DP1		

授業目標  
パソコン操作によるプレゼンテーション文書作成を中心に学習します。総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶことが授業の目標です。ソフトウェアオフィススペシャリストワード2016の試験内容に沿って学習し合格する力をつけることが目標です。

到達目標  
文字列や段落の書式設定、段落の並べ替え、グループ化ができる  
表の作成と変更、リストの作成と変更ができる  
グラフィック要素およびSmartArtの挿入と書式設定ができる  
リーフレットの内容が効果的に伝わる文書編集できる  
画像を挿入したり、文字の効果を設定してレイアウト編集できる

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）  
【予習】事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容とおおまかに理解します。  
【復習】テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習をします。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。

評価方法

実務的成果物の課題作成能力を評価する。授業態度・課題取り組み姿勢も評価対象として重視する。

その他

学習内容は実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト2016の試験に対応する学習内容とする  
連続性のある授業であるため、極力遅刻または欠席をしないように。

講義計画				
1	文書の作成、文書書式の設定 文書のオプションと表示をカスタマイズする	16		
2	文字列や段落の挿入する 文字列や段落の書式設定、段落の並べ替え、グループ	17		
3	表の作成と変更 リストの作成と変更	18		
4	参照のための情報や記号を作成する 標準の参考資料を作成する、管理する	19		
5	グラフィック要素の挿入と書式設定 SmartArtの挿入と書式設定	20		
6	文書の体裁を整えたり、複数ページを表示、編集する	21		
7	他の文書から情報を引用して効率よく文書を仕上げ	22		
8	総合模範試験演習	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		

使用教科書

No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	MOS Word 2016	佐藤薫	日経BP社	978-4822253141
2				
3				
4				
5				

使用教科書備考

MOS攻略問題集 Word 2016

参考書

30時間でマスター Word2016

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10240
科目	基礎教育科目	科目名	ボランティア実習Ⅰ		
配当年次	1年	期間	その他		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	単独
教員	松田 賢一				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP4.5,7,8,9				

授業目標	現代社会においては、協力協同の精神を啓くことがますます重要となつていて、保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。
到達目標	
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
・実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集して、予備知識を増やすこと。	
標準学修時間の目安	
・1回のボランティアにつき、報告書の作成に1時間程度必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
・1回のボランティア終了後、報告書をこまめに提出すること。	
評価方法	
・担当教員から承認されたボランティア活動の累積時間が30時間以上となった場合に単位を認定する。	
・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。	
その他	
・活動時間などを記した「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」の記載をしっかりとすること。	

講義計画					
1	オリエンテーション				ボランティア学外実習
2	例年のボランティア活動の説明				ボランティア学外実習
3	報告書のまとめ方を説明				ボランティア学外実習
4	「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明				ボランティア学外実習
5	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
6	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
7	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
8	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
9	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
10	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
11	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
12	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
13	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
14	ボランティア学外実習				ボランティア学外実習
15	ボランティア学外実習				学外授業出席証明書・学外実習報告書提出
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
なし					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10080
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅰ		
配当年次	1年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
標準学修時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
評価方法	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
その他	
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。	

講義計画					
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	16			
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	17			
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	18			
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	19			
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	20			
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	21			
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	22			
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	23			
9	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	24			
10	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	25			
11	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	26			
12	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	27			
13	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	28			
14	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	29			
15	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					
参考書					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10081
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅱ		
配当年次	1年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
標準学修時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
評価方法	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
その他	
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。	

講義計画	
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
9	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
10	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
11	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
12	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
13	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
14	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
15	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

使用教科書			
No	教科書名	著者名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。			
参考書			
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。			

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10082
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅲ		
配当年次	1年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム両館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム両館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
標準学修時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
評価方法	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
その他	
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。	

講義計画					
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	16			
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	17			
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	18			
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	19			
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	20			
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	21			
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	22			
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	23			
9	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	24			
10	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	25			
11	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	26			
12	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	27			
13	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	28			
14	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	29			
15	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					
参考書					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10083
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅳ		
配当年次	1年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
標準学修時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
評価方法	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
その他	
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。	

講義計画					
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	16			
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	17			
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	18			
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	19			
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	20			
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	21			
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	22			
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	23			
9	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	24			
10	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	25			
11	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	26			
12	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	27			
13	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	28			
14	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	29			
15	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					
参考書					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10084
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅴ		
配当年次	1年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
標準学習時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
評価方法	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
その他	
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。	

講義計画	
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
9	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
10	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
11	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
12	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
13	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
14	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
15	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

使用教科書			
No	教科書名	著者名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。			
参考書			
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。			



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10220
科目	基礎教育科目	科目名	社会人基礎論Ⅱ		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス
教員	加納 洋人/林原 和哉/海野 真樹				
必修区分	卒				
教育職員免許法に基づく分類					
該当科目コード	DP4.5, 6, 7, 8, 9				

授業目標	<p>学生生活と異なる社会人・職業人としての自覚と教養を育て、社会に出ていくための準備を行う。</p> <p>①地域社会が求める「人間的な力」を身に付け、人生を自分の力で切り開く。</p> <p>②美社会で生きていくためのマナー、社会常識、コミュニケーション能力等を身に付ける。</p> <p>③現代社会とは何か、どんな問題があるか自分で考え、表現できるようにする。</p> <p>④就職活動で必要となる力を身に付ける。</p>
到達目標	<p>①社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につける。</p> <p>②電話対応、来客対応、クレーム対応など社会人として必要なコミュニケーションが抱える課題を考えると表現できるようになる。</p> <p>③新聞、テレビの報道番組などを通して情報を収集し、現代社会が抱える課題を考えると表現できるようになる。</p> <p>④就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につける。</p> <p>⑤「プロフェッショナル」の記入を通して、二年間の自身の「人間的な力」の伸びを振り返り、さらに伸ばして行く。</p>
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	
普段から新聞を読み、テレビの報道番組等を見て現代社会が抱える課題について考えておく。日記などを書くこととで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。配布プリントを読んで読んで復習をする。	
標準学習時間の目安	
I回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。	
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
小テストに関しては、採点后、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介します。	
評価方法	
教科書に基づく小テスト(30%)、作文等による思考力・表現力の評価(30%)、課題・レポートによる理解力の評価(30%)、授業の態度、取り組み姿勢(10%)を数値化して、総合評価する。	
その他	
実務経験者など外部講師(ゲストスピーカー)による特別講話を行う場合がある。	

講義計画			
1	地域社会が求める能力は何か。やさしさや思いやりなど「人間的な力」の重要性について。(林原)	16	
2	「人間的な力」を知ろう。プロダクトシートの解析。	17	
3	プロダクトシートを活用した自己分析と自己PRについて。(林原)	18	
4	求人票の見方と情報収集について。実際の求人票を読み解く。(林原)	19	
5	書類選考の突破。履歴書・エントリーシート等作成の留意点について。(林原)	20	
6	応募書類の送付と到着のフォロー。確実に届けるための留意点について。(林原)	21	
7	ビジネス文書はどのように書くのか。社内文書、社外文書、報告書等の書き方。(加納)	22	
8	政治、経済問題など現代日本が抱える課題は何か。新聞を読んで考えてみよう。(加納)	23	
9	分かりやすい文章とは何か。他者をどう説得するか。自分の意見をどうまとめめるか。(加納)	24	
10	就職試験の作文でどう対応するのか。「起承転結」で作文を書いてみよう。(加納)	25	
11	会社の仕組みと仕事。PDCAサイクルで仕事を改善する。(加納)	26	
12	良好な人間関係を築くための来客対応と訪問時の基本マナーについて。(海野)	27	
13	電話の受け方、かけ方のマナーと、電話対応の重要性について。(海野)	28	
14	不満を信頼に変えるトラブル・クレーム対応力を身につけるには。(海野)	29	
15	半年後の「人間的な力」を記録しよう。プロダクトシートで、自身の成長を確認する。(林原)	30	
使用教科書			
No	教科書名	著者名	出版社名
1	2017B 3級公式テキスト	職業教育キャリア教育財団	日本能率協会
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
2017年版B 3級公式テキスト 職業教育・キャリア教育財団 監修 日本能率協会マネジメントセンター 出版 (1年次に購入したテキストを使用)			
参考書			
なし			
ISBN			
			978-4-8207-4945-4

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10078
科目	基礎教育科目	科目名	コミュニケーション・スキル		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス
教員	福島 基輝/保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当資格	DP5,8,9				

授業目標	価値観が多様化するなかで、保育者を取り巻く環境も大きく変化している。保護者・子どもへの対応もさることながら保育者同士の間接的関係の構築も迫られてきている。本授業では、様々な保育を取り巻く環境において、高い対心力を備えるために必要なコミュニケーション方法の基礎を学ぶ。特に、即戦力として活躍できる保育者を目指し、実践的な授業を通して、書くこと・話すこと・書くこととの基礎をトータルで学び、適切なコミュニケーションの仕方を習得することを目標とする。
到達目標	1. 場面に応じて適切な言葉を選び、敬語を使おうと心がけるようになる。 2. 物事の様子や変化を的確に言葉や文字で伝えようとするようになる。 3. 適切な人間関係を築くために必要な考え方やスキルを身につける努力を始める。 4. 聞き取りやすい話し方を実践しようとするようになる。 5. 表情や身振りなどを効果的に使うことを意識できるようになる。
授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習)	授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習)については、その都度伝ええます。
予習、復習、準備学習について	予習、復習、準備学習については、その都度伝ええます。
標準学習時間の目安	今回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。
課題(試験やレポート等)のフィードバック	採点後の課題返却、ミニテストや自己チェックリストの確認で得手不得手を知り、次回の講座まで正しい知識・より良いスキルを身に付けられるようにする。
評価方法	授業への取り組みや態度(50%)、提出課題(50%)を総合して評価します。
その他	授業に必要な資料は必要に応じてプリントを配布します。プリントを素材に、ロールプレイをしたり、保育現場を想定した文章作成など実践的な授業を行います。

講義計画				
1	オリエンテーション、授業の概要と目標、評価方法(福島)	16		
2	自己紹介および挨拶・感謝・謝罪の仕方について(福島)	17		
3	上手な聴き方(福島)	18		
4	質問する(福島)	19		
5	笑習日誌の書き方(なぜ笑習日誌を書くか、用語表現など)(保育学科教員)	20		
6	指導計画の書き方(指導計画の種類、計画する際の留意点など)(保育学科教員)	21		
7	子どもへの言葉かけ(発達障害の子どもへの関わり方を含めて)(保育学科教員)	22		
8	保護者とのコミュニケーション(保護者との話し方、電話対応)(保育学科教員)	23		
9	連絡帳の書き方(書く上での留意点など)(保育学科教員)	24		
10	園だよりの書き方(保育学科教員)	25		
11	やさしい頼み方(福島)	26		
12	上手な断り方(福島)	27		
13	自分を大切にする(福島)	28		
14	トラブル解決策を考える(福島)	29		
15	まとめ(保育者になる上でのコミュニケーションの重要性)(福島)	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
なし				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10331
科目	基礎教育科目	科目名	コンピュータリテラシーE		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	山崎 幸路				
必修区分	ME				
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP1				

授業目標	パソコン操作によるプレゼンテーション文書作成を中心に学習します。総合的な操作の考え方や何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶことが授業の目標です。マイクログソフトオフィススペシャリスト エクセル2016の試験内容に沿って学習し合格する力をつけることが目標です。
到達目標	テーブルを管理し、フィルター、並び替え、スタイルの管理ができる関数を使用してデータ集計と条件付きの計算を実行できる。グラフを作成かつオブジェクトを挿入し、書式を変更できる。売上データを集計するために、データの追加し分析請求書データを作成し、テキストボックスや画像を挿入することができる。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
【予習】事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容とおまかに理解します。また【復習】テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習をします。	
標準学習時間の目安	
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。	
評価方法	
実務的成果物の課題作成能力を評価する。授業態度・課題取り組み姿勢も評価対象として重視する。	
その他	
学習内容は実務で役立ち、マイクログソフトオフィススペシャリスト2016の試験に対応する学習内容とする。連続性のある授業であるため、極力遅刻または欠席をしないように。	

講義計画				
1	ワークシートとブックの作成 ワークシートとブックの管理、設定	16		
2	セルやセル範囲にデータを挿入、書式設定する セルやセル範囲にデータをまとめる、整理する	17		
3	テーブルを作成し、スタイルと設定オプションを管理する	18		
4	関数を使用してデータ集計と条件付きの計算を実行する	19		
5	グラフを作成し、グラフの書式を設定する オブジェクトを挿入し、書式を変更する	20		
6	営業記録を集計し、ブックのデータを整理する 売上データを集計するために、データを追加し分析	21		
7	請求書データを作成し、テキストボックスや画像を挿入する	22		
8	総合模範試験演習	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	MOS Excel 2016	土岐順子	日経BP社	978-4822253158
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
MOS攻略問題集 Excel 2016				
参考書				
30時間でマスター Excel2016				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10332
科目	基礎教育科目	科目名	コンピュータリテラシーP		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	山崎 幸路				
必修区分	MP				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DP1_6				

授業目標	パソコン操作によるプレゼンテーション文書作成を中心に学習します。総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶことが授業の目標です。マイクロソフトオフィススペシャリスト パワーポイント2016の試験内容に沿って学習し合格する力をつけることが目標です。
到達目標	テキスト、図形、テキストボックスを挿入しスライドを作成することができる。 表、グラフ、SmartArt、メディアを挿入し書式設定することができる。 スライドのコンテントにアニメーションを設定することができる。 アンケートの結果などをプレゼンテーション資料を作成することができる。 社内文書として提案書のフォォーマットを作成することができる。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
【予習】 事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容とおまかに理解します。 【復習】 テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習をします。	
標準学習時間の目安	
1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。	
評価方法	
実務的成果物の課題作成能力を評価する。授業態度・課題取り組み姿勢も評価対象として重視する。	
その他	
学習内容は実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト2016の試験に対応する学習内容とする 連続性のある授業であるため、極力遅刻または欠席をしないように。	

講義計画				
1	スライド、配布資料、ノートを変更する スライドショーを設定し、実行する	16		
2	テキスト、図形、テキストボックスを挿入する 図形を挿入し、並べ替え、グループ化する	17		
3	表、グラフを挿入し書式設定する SmartArt、メディアを挿入し、書式設定と管理する	18		
4	スライドのコンテントにアニメーションを設定する 画面切り替えとアニメーションのタイミングを設定する	19		
5	複数のプレゼンテーションのコンテントを結合する プレゼンテーションを保護する、共有する	20		
6	プレゼンテーションのフォォーマットを作成する アンケート結果などをプレゼンテーション資料にま	21		
7	社内文書として提案書のフォォーマットを作成します	22		
8	総合模擬試験演習	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	MOS PP 2016	市川洋子	日経BP社	978-4822253165
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
MOS攻戦略問題集 PowerPoint 2016				
参考書				
30時間でマスター Word2016				
30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10340
科目	基礎教育科目	科目名	ボランティア実習Ⅱ		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	単独
教員	松田 賢一				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP4.5, 6, 7, 8, 9				

授業目標	現代社会においては、協力協同の精神を啓うことがますます重要となつていて、保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。
到達目標	
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
・実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集して、予備知識を増やすこと。	
標準学修時間の目安	
・1回のボランティア終了後、報告書の作成に1時間程度必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
・1回のボランティア終了後、報告書をこまめに提出すること。	
評価方法	
・担当教員から承認されたボランティア活動の累積時間が30時間以上となった場合に単位認定をする。	
・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。	
その他	
・活動時間などを記した「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」の記載をしっかりとすること。	

講義計画					
1	オリエンテーション			16	ボランティア学外実習
2	例年のボランティア活動の説明			17	ボランティア学外実習
3	報告書のまとめ方を説明			18	ボランティア学外実習
4	「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明			19	ボランティア学外実習
5	ボランティア学外実習			20	ボランティア学外実習
6	ボランティア学外実習			21	ボランティア学外実習
7	ボランティア学外実習			22	ボランティア学外実習
8	ボランティア学外実習			23	ボランティア学外実習
9	ボランティア学外実習			24	ボランティア学外実習
10	ボランティア学外実習			25	ボランティア学外実習
11	ボランティア学外実習			26	ボランティア学外実習
12	ボランティア学外実習			27	ボランティア学外実習
13	ボランティア学外実習			28	ボランティア学外実習
14	ボランティア学外実習			29	ボランティア学外実習
15	ボランティア学外実習			30	学外授業出席証明書・学外実習報告書提出
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
なし					



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10181
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅶ		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
標準学習時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
評価方法	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
その他	
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。	

講義計画					
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	16			
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	17			
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	18			
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	19			
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	20			
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	21			
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	22			
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	23			
9	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	24			
10	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	25			
11	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	26			
12	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	27			
13	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	28			
14	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	29			
15	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					
参考書					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10182
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅲ		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。
標準学修時間の目安	1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。
課題（試験やレポート等）のフィードバック	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。
評価方法	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。
その他	履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。

講義計画					
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	16			
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	17			
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	18			
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	19			
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	20			
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	21			
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	22			
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	23			
9		24			
10		25			
11		26			
12		27			
13		28			
14		29			
15		30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					
参考書					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	10183
科目	基礎教育科目	科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅹ		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ	DP8				

授業目標	当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。
到達目標	各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
標準学習時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
評価方法	
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。	
その他	
履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、単位互換科目を開講している高等教育機関まで受講のための往復の時間を考慮すること。	

講義計画					
1	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	16			
2	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	17			
3	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	18			
4	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	19			
5	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	20			
6	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	21			
7	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	22			
8	受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う	23			
9		24			
10		25			
11		26			
12		27			
13		28			
14		29			
15		30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					
参考書					
各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10074
科目	基礎教育科目	科目名	国際交流		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	-
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス項目番号	DP8				

授業目標	本学科で学んだ講義や実習を通して修得した知識を基に、海外における食文化が土壌や歴史とどのように関わっているかという実情を見聞・体験して、今後の社会生活に役立てる。 2. 集団での行動を通して、協調性を身につける。 3. 外国での体験に基づく価値観の違いを理解し、豊かな人間性を身につけることができる。 4. 自分で作り上げる研修を通して、能動的な学習能力を身につけ、普段の学習に役立てる。
到達目標	
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
出発前に個人及びグループ毎のテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。	
標準学習時間の目安	
事前の各種手続き、渡航準備および帰国後の報告書作成等を合わせて、合計30時間の自主学習が必要となる。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
参加者全員の研修報告書を取りまとめ、冊子として配布する。	
評価方法	
事前研修態度（10%）、現地研修態度（40%）および研修報告書（50%）などを総合的に評価する。	
その他	渡航費用が別途必要である。学内掲示等で参加者の募集を行う。1年次に履修することも可能である。現地研修に際しては、特に体調管理に努めること。履修者数によっては、旅行会社が提供するパッケージツアーに研修内容を組み入れる場合がある。

講義計画					
1	事前研修 (オリエンテーション)	16			
2	現地研修 (機中泊にて、時差、地球の大きさの実感)	17			
3	現地研修 (日本の常識と世界の常識)	18			
4	現地研修 (建造物、芸術、美術の本物に接する)	19			
5	現地研修 (訪問国の料理を味わう)	20			
6	現地研修 (食文化・生活文化の違いを肌で感じる)	21			
7	現地研修 (集団行動の中の自分の役割を果たす)	22			
8	事後研修 (研修報告書の作成)	23			
9		24			
10		25			
11		26			
12		27			
13		28			
14		29			
15		30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
訪問国の観光ガイド並びに関連書籍					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10075
科目	基礎教育科目	科目名	文化交流		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	複数
教員	保育学科教員				
必修区分					
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス項目番号	DP8				

授業目標	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会へと旅立つ学生諸君が民間を広く、さらには自分達の住む地域への郷土心を深めることを目標とする。また、現地の保育所を訪問し、子ども達や保育士と交流を図る。
到達目標	1 集団行動を通して、協調性を身につけ、今後の社会生活に役立てる。 2 他地域との距離感や気候・風土などの違いに興味を持ち、自ら調べることができる。 3 現地の保育所を見学し、気候・風土・文化・歴史等が異なる地域の保育環境や子どもの特徴について学ぶ。 4 自主研修の内容を自ら計画し、実行することができる。 5 旅行の運営や進行に意欲的に参加し、学生同士や教職員との親睦を深め、積極的に思い出し出作りを行う。
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	個人あるいはグループ毎にテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。
標準学修時間の目安	・1回の講義あたり1時間の予習を行うこと。
課題(試験やレポート等)のフィードバック	・研修成果をレポートにまとめ参加学生に配布する。
評価方法	・事前研修、保育所訪問準備、現地研修態度について総合的に評価する。
その他	・現地研修に際しては、十分体調管理に気を配ること ・自主研修に際しては、自覚をもって行動すること。特に安全面に注意すること。 ・別途費用がかかる。

講義計画				
1	事前オリエンテーション	16		
2	研修に向けての役割分担を決める	17		
3	保育所での交流計画を作成する	18		
4	保育所の子ども達へのプレゼント作りをする	19		
5	保育所の子ども達へのプレゼント作りをする	20		
6	現地研修①(現地の文化に触れる)	21		
7	現地研修②(現地の歴史に触れる)	22		
8	現地研修③(現地の食文化に触れる)	23		
9	現地研修④(現地の保育環境に触れる)	24		
10	現地研修⑤(現地の保育所にて子ども達と交流)	25		
11	現地研修⑥(自主研修をおこなう)	26		
12	研修の成果についての報告会	27		
13	研修成果レポートを作成する①	28		
14	研修成果レポートを作成する②	29		
15	研修のまとめと課題の整理	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
なし				



## 専門教育科目

### 1年次配当科目

音楽Ⅰ	32
図画工作Ⅰ	33
社会福祉	34
社会的養護	35
児童家庭福祉	36
保育原理	37
子どもの保健Ⅰ	38
乳児保育	39
教職概論	40
教育原理	41
教育心理学	42
家庭支援論	43
健康	44
環境	45
表現	46
保育内容（健康）	47
保育内容（環境）	48
保育内容（表現）	49
音楽基礎	50
造形表現基礎	51
保育内容総論	52
保育実習指導Ⅰ	53
子どもの保健Ⅱ	54
人間関係	55
言葉	56
保育内容（人間関係）	57
保育内容（言葉）	58

### 2年次配当科目

幼児体育	59
相談援助	60
子どもの食と栄養	61
臨床心理学	62
障害児保育	63
社会的養護内容	64
発達心理学	65
保育相談支援	66
総合表現	67
教育課程総論	68
教育の方法と技術	69
教育相談	70
教育経営論	71
幼稚園教育実習事前指導	72
幼稚園教育実習事後指導	73
幼稚園教育実習	74
幼児理解	75
音楽応用	76
保育実習指導Ⅱ	77
保育実習指導Ⅲ	78
保育実習Ⅰ	79
保育実習Ⅱ	80
保育実習Ⅲ	81
保育実践演習	82
レクリエーション指導法	83
レクリエーション現場実習	84
音楽Ⅱ	85
図画工作Ⅱ	86
国語	87

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	11110
科目	専門教育科目	科目名	音楽1		
配当年次	1年	期間	通年		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数
教員	山下 真由美/高橋 セリカ/伊藤 亜希子				
必修区分	卒保幼				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目				
該当資格(ラ・ポ・リ・ン)項目番号	DP1				

**授業目標**  
幼稚園教育要領・保育所保育士指針の領域「表現」のねらいに則し、幼児教育に必要とされる音楽基礎実技の習得を目指す。具体的には、音楽基礎（音楽理論・ソルフェージュ）の知識を基に、基礎的なピアノ技術や歌唱技術の向上を目指すとともに、保育の内容を理解し、子どもの発達に心じた豊かな音楽表現活動を構想できる力を培う。

**到達目標**

- ・保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（ピアノ実技、歌唱方法）を習得する。
- ・幼児教育に必要とされる表現力を身に付け、基礎的な音楽理論と基礎的実技（ピアノ演奏）を関連付けて理解し、再現できる。
- ・保育・幼児教育に必要とされる子ども歌の「弾き歌い」ができる。
- ・身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定した発表会等の表現活動の企画・実施ができる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

- ・ピアノ演奏技術及び歌唱技術の修得については、十分な練習が必要である。ピアノ個人練習室や自宅のピアノで毎日練習する習慣を身に付け、自己目標を設定して取り組むこと。

標準学習時間の目安

- ・次の講義までに予習・復習を含めて2時間以上の学修が望ましい

課題（試験やレポート等）のフィードバック

- ・再試験対象者のみ、試験内容（演奏及び弾き歌い）のアドバイスを行う。

評価方法

実技（ピアノ、歌唱、弾き歌い等）の取組、予習・復習の取組態度、課題、試験等を総合的に評価する。

その他

- ・取組内容においては、適宜一斉指導を行う。
- ・実技（ピアノ、歌唱、弾き歌い）は、グレードまたはグループ別に行う。
- ・実技で取組む楽曲については、授業内で適宜説明を行う。

講義計画			前期の課題確認 課題・実技発表	後期の計画
1	オリエンテーション（指導内容、年間計画等） 保育・幼児教育における音楽表現活動ねらい	16	前期の課題確認 課題・実技発表	後期の計画
2	保育・幼児教育における音楽の基礎力とは 各自の音楽体験の省察、自己目標設定	17	グレードによる基礎実技力の向上 弾き歌い、発声 基礎①	
3	歌唱、発声、グレードの確認、弾き歌いとは	18	グレードによる基礎実技力の向上 弾き歌い、合唱 基礎②	
4	グレードによる基礎実技力習得の計画 弾き歌い全容確認	19	グレードによる基礎実技力の向上 弾き歌い、発声 応用①	
5	グレード実技練習（各自の基礎力向上①） 弾き歌い 基礎 前半	20	グレードによる基礎実技力の向上 弾き歌い、合唱 応用②	
6	グレード実技練習（各自の基礎力向上②） 弾き歌い 基礎 後半	21	グレードによる基礎実技力の向上 弾き歌い、発声 実践①	
7	グレード実技練習（各自の基礎力の確認） 弾き歌い 確認 前半	22	グレードによる基礎実技力の向上 弾き歌い、合唱 実践②	
8	グレード実技練習（各自の基礎力の確認） 弾き歌い 確認 後半	23	音楽表現と小学校音楽教育とのかかわり	
9	幼児教育における音楽表現・保育の現状 情報機器の活用	24	子どもの発達をふまえた音楽表現活動とは グレードによる実技課題（前半グループ）	
10	グレード実技練習（各自の基礎力の定着） 弾き歌い 自己分析 前半	25	子どもの発達を踏まえた音楽表現活動の実際 グレードによる実技課題（後半グループ）	
11	グレード実技練習（各自の基礎力の定着） 弾き歌い 自己分析 後半	26	学習発表会の計画立案 保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて 学習発表会の準備・協働的取組 各自の練習	
12	グレード実技練習（各自の基礎力の定着） 弾き歌い 省察と改善	27	学習発表会の準備・協働的取組 各自の練習	
13	音楽表現を保育の構想につなげる視点 歌唱、合唱	28	学習発表会（前半） 評価 保育構想に基づく音楽表現活動の視点から	
14	前期まとめ：学習発表会（前半） 取組の省察と改善	29	学習発表会（後半） 改善 保育構想に基づく音楽表現活動の視点から	
15	前期まとめ：学習発表会（後半） 取組の省察と改善	30	実技試験に向けた準備・試験の心得	

使用教科書

No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	幼児の音楽教育	音楽教育研究協会	音楽教育研究協会	978-4-87136-718-9
2	ポケット音楽辞典	堀内久美雄	音楽之友社	4-276-00018-1
3				
4				
5				

使用教科書備考

「幼児教育・保育士養成のための新編幼児の音楽教育―音楽的表現の指導―」 音楽教育研究協会 著

参考書

授業において適宜資料を紹介・配布する。



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	13110
科目	専門教育科目	科目名	社会福祉		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	家村 昭矩				
必修区分	保主				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DP1、2、3、4、7				

授業目標	「社会福祉」は、現代社会に生活する私たちにとってはなくてはならないものです。しかし、その意義や内容は、必ずしも正しく理解されていません。社会福祉のなり立ち・制度を学び、今日の様々な社会福祉問題（生活問題、少子・高齢化問題、「障害」児・者問題など）に焦点をあて、社会福祉の現状について認識を深めます。
到達目標	社会福祉は、人間の尊厳にかかわり、「個人の尊重」、「生存権保障」を具体化するものです。それらの施策や実態を理解し、社会福祉を身近な問題としてとらえることを目標とします。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）
授業では、その時々で社会問題になっている社会福祉・生活問題などを取り入れながら進めます。日々の新聞、TVなどのニュースに関心を持ってください。社会福祉の専門用語は、教科書の索引を活用してください。	
標準学修時間の目安	
今回の講義までに、予習・復習を含めて4時間程度の学修が望ましい。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
毎時間のミニレポートの質問などには、次の授業でコメントします。課題レポートは評価後に返却します。	
評価方法	
毎時間のミニレポート、課題レポート、受講態度などにより総合的に評価します。	
その他	
なし	

講義計画				
1	ガイダンス（講義の概要と進め方）、保育と社会福祉	16		
2	「社会福祉」を考える～社会福祉の概念	17		
3	社会福祉のあゆみ①～欧米における社会福祉の展開	18		
4	社会福祉のあゆみ②～日本における社会福祉の展開	19		
5	社会福祉の体系①～社会福祉法制度	20		
6	社会福祉の体系②～社会福祉のサービス実施体制	21		
7	生活問題を考える～貧困と生存権保障（朝日訴訟、公的扶助）	22		
8	少子化問題を考える～少子化と次世代育成	23		
9	子ども家庭福祉の問題を考える～要保護児童と自立支援	24		
10	高齢者問題を考える～高齢社会と介護保険制度	25		
11	「障害」児・者問題を考える①～様々な「障害」	26		
12	「障害」児・者問題を考える②～障がい児・者の自立支援	27		
13	地域福祉を考える～ボランティア、住民福祉活動	28		
14	これからの社会福祉～先進国（スウェーデン）から学ぶ	29		
15	まとめ	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	新社会福祉とは何か 第2版	大久保秀子	中央法規	978-4-8058-3967-6
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
毎回レジメを配布します。適宜紹介します。				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	13230
科目	専門教育科目	科目名	社会的養護		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	家村 昭矩				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス項目番号	DP2, 3, 4				

授業目標	<p>子どもの社会的養護は、大別すると、児童福祉施設における養護（施設養護）と、社会的養護を必要とする子ども（里親または養育家庭）における養護（家庭養護）に分類できる。社会的養護を必要としている子どもが置かれている環境と取り組みの現状や課題について学ぶことを授業の目標とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会的養護の意義や歴史の変遷について理解・説明できる。</li> <li>・社会的養護と児童福祉の関連や子どもの権利擁護について理解・説明できる。</li> <li>・社会的養護制度や実施体系について理解・説明できる。</li> <li>・社会的養護における子どもの権利擁護と施設養護等のあり方を理解・説明できる。</li> <li>・社会的養護の現状と課題について理解・説明できる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）	
社会的養護に関連する新聞記事やニュースにも関心を持つこと。	
標準学修時間の目安	
一回の講義あたり、各2時間程度の予習と復習が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
授業終了前のミニレポート作成を課すが、次回の授業時に全体的コメントを予定。	
評価方法	
定期試験、課題、受講態度を考慮して総合的に評価する。	
その他	
必要に応じてプリントを配布する。	

講義計画				
1	オリエンテーション（社会的養護の理念と概念）	16		
2	社会的養護の歴史の変遷	17		
3	児童家庭福祉と社会的養護	18		
4	子どもの権利擁護と社会的養護	19		
5	社会的養護の制度と法体系	20		
6	社会的養護の仕組みと実施体系	21		
7	家庭的養護と施設養護	22		
8	社会的養護の専門職について	23		
9	施設養護の基本原理	24		
10	施設養護の実際（生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援）	25		
11	施設養護とソーシャルワーク	26		
12	社会的養護施設の運営や管理	27		
13	社会的養護の倫理確立	28		
14	被措置児童と虐待防止	29		
15	社会的養護と地域福祉	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	社会的養護 [第2版]	相澤仁、林浩康	中央法規	978-4-8058-5603-1
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
基本保育シリーズ 社会的養護 [第2版] 相澤 仁、林 浩康 中央法規				
参考書				
なし				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	13210
科目	専門教育科目	科目名	児童家庭福祉		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	岡崎 圭子				
必修区分	卒保主				
教育職員免許法に基づく分類					
該当資格・ポリシー・項目番号	DP1、2、3、4、7				

授業目標	子どもや家庭を取り巻く社会情勢と実態を踏まえ、課題を把握し、子どもの育ちと子育て家庭の支援のあり方を学ぶ。
到達目標	1 子どもや子育て家庭を取り巻く社会情勢と実態を把握する。 2 児童家庭福祉の基本的な理念と子どもの権利について理解する。 3 児童家庭福祉の法律や制度を把握し、ニーズと支援のあり方について基本的知識を身につける。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
授業の理解を高めるため、テキストや配布資料をよく読んでおくこと。	
標準学習時間の目安	一回の講義にあたり、各2時間の予習・復習が必要である。
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
各授業の振り返りのため、ミニレポート作成を課し、次回に総括的なコメントを予定。	
評価方法	
定期試験(70%)、ミニレポート(20%)、受講態度等(10%)を考慮して総合的に評価する。	
その他	
必要に応じてプリントを配布する。	

講義計画				
1	オリエンテーション 子どもや家庭を取り巻く社会情勢と実態	16		
2	現代社会における児童家庭福祉の理念	17		
3	児童家庭福祉の歴史の変遷と形成過程	18		
4	児童家庭福祉と保育の役割	19		
5	児童の権利擁護	20		
6	児童家庭福祉の制度と実施体制	21		
7	児童家庭福祉の施設と専門職	22		
8	子ども・子育て支援制度の概要	23		
9	母子保健と児童の健全育成	24		
10	多様な保育ニーズへの対応	25		
11	児童虐待、DVへの対応	26		
12	障がい児への対応	27		
13	少年非行等への対応	28		
14	次世代育成支援とワーク・ライフ・バランス	29		
15	保育・教育等との連携とネットワーク	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	児童家庭福祉	新保幸男、小林理	中央法規	978-4-8058-5602-4
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
保育所保育指針 新保育士養成講座第3巻 児童家庭福祉 児童家庭福祉編集委員会編 全国社会福祉協議会				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12160
科目	専門教育科目	科目名	保育原理		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	松田 賢一				
必修区分	保主				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DP1-2, 3, 4, 5, 7				

授業目標	<p>保育所、幼稚園、認定こども園、学童保育等の保育施設における保育実践のあり方と理論を探究し、「保育」の基本を包括的に理解する。具体的には、保育の意義及び目的、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について理解することを目標とする。</p>
到達目標	<p>1. 保育の意義を自分なりに説明できる。  2. 保育所保育指針に示されている保育の基本を説明できる。  3. 保育課程、保育計画に基づく、保育目標や内容、方法を考察し、説明できる。  4. 諸外国や日本の保育の思想や歴史の概略を理解し、述べることができる。  5. 保育の現状や課題について考察し、論述できる。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読すること。</li> <li>・ 毎回の授業で前回の復習をするので、事前にノートを確認し、疑問点を整理すること。</li> </ul>	
標準学習時間の目安	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習、復習を含めて4時間の学修が望ましい。</li> </ul>	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元終了毎に課題が出されるので、しっかり取り組むこと。確認後、課題については、担当印を押し、学生に返却する。</li> </ul>	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期末にノート提出と課題に取り組みもらい、総合的に評価する。</li> </ul>	
その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は他科目でも使用します。</li> <li>・ A4のノートを用意すること。</li> <li>・ 適宜資料を配布する。</li> </ul>	

講義計画				
1	保育とはなにか	16		
2	保育の意義と目的、就学前施設の特徴	17		
3	保育の思想と歴史の変遷	18		
4	保育所保育指針における保育の基本	19		
5	保育所保育に関する基本原則	20		
6	保育所保育指針の保育における養護	21		
7	保育の目標と内容	22		
8	保育の方法	23		
9	保育の計画と評価	24		
10	子ども理解に基づく保育の過程	25		
11	子ども家庭福祉と保育	26		
12	保育の社会的役割と責任	27		
13	子ども・子育て支援新制度	28		
14	保育者の専門性	29		
15	保育の現状と課題・まとめ	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	—	—	—
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
「これからの保育者論」高橋貴志 萌文書林				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	14110
科目	専門教育科目	科目名	子どもの保健Ⅰ		
配当年次	1年	期間	通年		
授業形態	講義	単位数	4	担当形態	単独
教員	松坂 美奈子				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当資格(ラ・ボ・リ・ン)項目番号	DPI_4.5				

**授業目標**  
 子どもをとりまき環境は急速に変化している。未来の社会を担う子どもは、健康なからだと健全な心を  
 持つて発育・発達していかなければならない。個々の子どもが本来持つ持っている力を十分に発揮でき、その  
 可能性を伸ばすことができるよう、保育士は子どもの特徴をよく知っておくことが重要である。  
 子どもの特徴をはじめ、子どもの生活、病気の症状と観察の要点、健康を保持・増進する保健活動につ  
 いて基本的な知識を習得する。

**到達目標**

1. 子どもの保健活動の意義を説明できる。
2. 子どもの身体保育・生理機能・運動機能・精神機能の発達を理解し、説明できる。
3. 子どもの精神保健とその問題・課題を理解し、説明できる。
4. 感染症と予防接種の概要をまとめ、発表できる。
5. 子どもに多い疾病及び適切な対応を理解し、概要をまとめ、発表できる。
6. 環境及び衛生管理・安全管理について、具体的に説明できる。
7. 子ども自身の健康及び安全の実施体制について理解できる。

授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習)

- ・シラバスの講義計画に沿って授業前に教科書を読み、語句の読み方や意味を調べておく。
- ・授業後は教科書とプリントを見直して、要点を確実に覚える。
- ・特に、後期に前期の内容をふまえた上での学習なので、予習・復習は必須である。
- ・乳幼児および健康に関する最新の情報を得るために、日ごろから意識して新聞やニュースを見聞きする  
こと。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて8時間の学修が望ましい。

課題(試験やレポート等)のフィードバック

定期試験後(追・再試験対象者発表日に)模範解答を掲示する。

評価方法

試験、受講態度、課題への取り組み姿勢を総合的に評価する。

その他

- ・必要に応じてプリントを配布するので、専用ファイルを準備すること。
- ・課題等の期限は厳守すること。
- ・グループ学習では、全員が協力し合うこと。

講義計画	
1	オリエンテーション、保健活動の意義と目的、健康の概念 16 感染症と予防接種①：感染症とは、子どもにとって重要な感染症
2	健康指標(母子保健統計)、児童虐待 17 感染症と予防接種②：予防接種
3	新生児①：新生児の用語、新生児の特徴 18 「重要な感染症」について①：突発性発疹、伝染性紅斑、手足口病
4	新生児②：低出生体重児、新生児の養護 19 「重要な感染症」について②：日本脳炎、百日咳、麻疹、風疹、水痘
5	子どもの発育・発達と保健①：発育の概念、身体発育の状況・経過 20 「重要な感染症」と「性感染症」について③：インフルエンザ、クラミジア、ヘルペス、エイズ
6	子どもの発育・発達と保健②：身体発育に影響する因子、身体計測・評価 21 健康と病気、異常：子どもの病気の特徴、免疫とアレルギー、むし歯の予防
7	生理機能の発達と保健①：体温、呼吸、血圧、脈拍 22 症状に対する対応①：発熱、けいれん、脱水症
8	生理機能の発達と保健②：感覚、排泄、睡眠 23 症状に対する対応②：腹痛、嘔吐、下痢
9	運動機能の発達と保健①：運動機能の発達、原始反射 24 症状に対する対応③：せき・喘鳴、発疹
10	運動機能の発達と保健②：乳児期の運動機能、幼児期の運動機能 25 乳幼児期の病気①：；感染症、食中毒
11	精神機能の発達と保健①：言葉、情緒、子どもの精神保健 26 乳幼児期の病気②：発育と栄養の障害、アレルギー、消化器の病気
12	精神機能の発達と保健②：社会性、精神発達の評価 27 乳幼児期の病気③：呼吸器、皮膚、眼・耳・鼻などの病気
13	子どもの食事：子どもの栄養の特徴、乳幼児期の栄養 28 集団保育における健康管理①：意義・目的、健康管理の実際
14	子どもの生活環境：総論、各論 29 集団保育における健康管理②：環境及び衛生管理、災害対策、保健安全管理
15	事故と応急処置：子どもと事故、事故発生と種類、事故防止、応急手当 30 母子保健行政：母子保健対策、職員間の連携、家庭・地域・他機関との連携

使用教科書

No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	子どもの保健	巻野悟郎 編	診断と治療社	978-4-7878-2204-9
2	子どもの保健Ⅰ	堀浩樹・梶美保 編著	建帛社	978-5-7679-5016-7
3	子どもの保健・実習	兼松百合子 他	同文書院	978-4-8103-1424-3
4				
5				

使用教科書備考

1. 子どもの保健 第7版 追補
2. 保育を学ぶ人のための 子どもの保健Ⅰ
3. 子どもの保健・実習 すこやかな育ちをサポートするために

参考書

なし

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	14220
科目	専門教育科目	科目名	乳児保育		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独
教員	四十澤 美行				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イブイロ・ポイント・項目番号	DPI_4_5				

授業目標	乳児保育の理念と役割、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発達・生活と遊び・保育の環境に基づいた援助やかかわりについて学ぶ。保育課程に基づく指導計画の作成と観察および自己評価の基本を理解する。乳児保育における保護者や関係機関との連携の重要性を理解する。
到達目標	・乳児保育の理念、歴史の変遷、役割や機能を理解できる。・保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題が理解できる。・3歳未満児の発達を把握し、月齢に応じた援助やかかわりができる。・月齢に応じた乳児の抱き方、衣服の着脱、おむつ交換ができる。・ミルクの調乳、授乳と排気、母乳パック使用ができる。・沐浴が手順できる。・乳児保育の計画と記録の基礎を理解できる。・乳児保育の環境について理解し、保護者や関係機関との連携を学び、乳児保育の未来について考察できる。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	・シラバスの授業計画に沿って授業に参加する前にテキストを読み、内容を大まかに把握してください。・授業後は教科書・ノート・プリントを振りかえり、授業で学んだ内容をノートにまとめてください。・ニュースや新聞など保育士・子育てに関する時事の取集をまとめてください。
標準学修時間の目安	・今回の講義までに事前学習（1時間）と事後学習（2時間）程度の学修が望ましい。
課題（試験やレポート等）のフィードバック	試験後は成績の良否に関わらず、試験問題を配布しますので学習し、乳児保育の体得に努めてください。
評価方法	授業態度、試験、ノート提出等により総合的に評価。
その他	座席表に従って着席すること。必要に応じて資料を配布する。

講義計画				
1	オリエンテーション・子どもが心身ともに豊かに育つとは・乳児保育の意義	16		
2	乳児保育の意義・乳児保育の基本・発達とは	17		
3	乳幼児の発達	18		
4	乳幼児の発達・言葉の発達・愛着の発達	19		
5	乳幼児の生活・配慮を要する子ども	20		
6	子どもの生活と遊び	21		
7	乳児保育の様々な場・入所時の健康調査	22		
8	登園時の健康観察・演習事前学習	23		
9	衣類の着せ方と脱がせ方・おむつ交換・児の抱き方・ミルクの調乳・冷凍母乳パック作成	24		
10	生活と健康・子どもの育ちと食事・演習事前学習	25		
11	沐浴・冷凍母乳パックの使用法・哺乳ビンによる授乳・排気	26		
12	食の悩みと考え方・職員との協力体制・家族との連携	27		
13	保育の計画と記録	28		
14	家庭・地域との連携	29		
15	乳児保育の今後の課題・乳児保育のまとめ	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	乳児保育〔新版〕	増田まゆみ編著	北大路書房	978-4-7628-2843-0
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
乳児保育〔新版〕 新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る				
参考書				
なし				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	17120
科目	専門教育科目	科目名	教職概論		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	三橋 功一				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当イ(7)のナンバリ	DPI,7				

**授業目標**  
 教員の職務は、人間の心身の発達に直接関わり人格形成に大きな影響を及ぼすもので、高い専門性と実践的指導力が求められる。教職概論は、教師・保育者の職務と備えるべき条件を包括的に取り上げ教職の全体的把握し、専門職としての基礎を確立するものである。この授業では、教職の意義、保育者の役割、職務内容、勤務等と教職等に必要知識及び技能等に関する学習を通して、教職の魅力や教職への意欲、適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解を深めることを目標としている。

- 到達目標**
- (1) 教職とは、どのような職業か説明できる。
  - (2) 教師・保育者に求められる専門性・実践的能力について説明できる。
  - (3) 自ら求めず教師・保育者とそのための自己課題について具体的に説明できる。
  - (4) 教師・保育者の資質向上＜成長する教師・学び続ける教師＞について説明できる。
  - (5) 教師・保育者の勤務・倫理等について説明できる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業前に、(1)資料等を読み、重要語・注目語等にマーカーを付します。(2)重要語・注目語等の語彙・意味を辞書・事典等で調査し、予習ノートに記述します。(3)併せて資料の主張等を整理し概要をまとめるとともに疑問点等をもとに予習ノートを作成し、授業に持参します。授業後に、(4)授業における学びをまとめる。

標準学習時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者へのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。

評価方法

「教室授業の学びと教室外の学びの学習成果」を集めた「学習ポートフォリオ（総合報告書）」を作成してもらい、評価対象とします。

その他

毎時間授業終了時に、学習の振り返りを記述（「せんせい、あのね！」）  
 フォトリポート（A4判2穴）、A4判用紙、国語辞典、英和辞典等を持参

講義計画		
1	オリエンテーション	16
2	教職の意義と教職観の変遷	17
3	理想の教師・保育者像（学びの専門家への学び）	18
4	教師・保育者の専門性・実践的指導力の学びと省察	19
5	教員の任用と勤務・倫理	20
6	保育（幼稚園・保育園）における教師・保育者の役割	21
7	保育（発達）における教師・保育者の役割	22
8	教師・保育者の職場と教師・保育者の協働	23
9	発達の気になる子に寄り添う教師・保育者の理解と役割	24
10	地域・家庭との連携と教師・保育者の役割	25
11	教師の資質向上＜成長する教師・学び続ける教師＞と研修	26
12	教育実習の意義と学び	27
13	進路選択と教員採用選考・準備等	28
14	これからの保育と教師・保育者	29
15	まとめ（振り返り等）	30

使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				

使用教科書備考  
 なし

参考書  
 新教職概論、赤星晋作（編著） 学文社、  
 教職概論、佐藤晴雄、宇陽書房

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	17110
科目	専門教育科目	科目名	教育原理		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	榊 ひとみ				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当科目のナンバリング項目番号	DPI,7				

**授業目標**  
この授業では「教育とは何か」「人間とは何か」「人間にとつて教育がなぜ必要なのか」といった人間や教育についての根源的な問いを立てることから始めたいきます。「当たり前」と思えることでも、根源的な問いを立てることにより、より深く考えることが可能となります。これを「常識」とし、教育の「常識」を問う直すことができるよう、十分な力量を形成することがこの授業の目標です。また学生の皆さんが、ただ一方的に教授されるのではなく、学習者としての主体性を発揮できる条件についても検討していきます。

**到達目標**  
1. 教育の意義、目的及び児童福祉等との関わりについて説明できる。  
2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について論述できる。  
3. 教育の制度について説明することができる。  
4. ささまざまな教育実践について論述できる。  
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について説明できる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業が始まる前に必ず、学習用のノートを準備しておいて下さい。

予習は、授業日までに教科書該当ページを読み、質問や感想、自分のなりの考えをノートに整理して下さい。復習は、学習した内容をノートに分かりやすく整理しておいて下さい。

標準学習時間の目安

1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範解答を掲示します。

評価方法

授業への積極性(10%)、毎授業後の「学習のまとめシート」への記入状況(10%)、ノート提出(40%)、定期試験(40%)により評価します。

その他

教科書の内容理解を深め、論点を整理するために、毎時レジュメを配布します。  
※毎回の授業の流れは、①教科書の論点整理(講義)⇒②論点に関する議論(グループワーク)⇒③議論の共有と「学習のまとめシート」への記入(授業のふり返し)を基本とします。

講義計画		
1	教育の意義 — 教科書 第1講 (pp.1-12)	16
2	教育の目的 — 教科書 第2講 (pp.13-24)	17
3	教育と児童福祉の関連性 — 教科書 第3講 (pp.25-36)	18
4	人間形成と家庭・地域社会 — 教科書 第4講 (pp.37-48)	19
5	諸外国の教育思想 — 教科書 第5講 (pp.49-60)	20
6	諸外国の教育の歴史 — 教科書 第6講 (pp.61-72)	21
7	日本の教育思想・歴史 — 教科書 第7講 (pp.73-84)	22
8	子ども観と教育観 — 教科書 第8講 (pp.85-96)	23
9	教育制度の基本 — 教科書 第9講 (pp.97-108)	24
10	教育の法律と行政 — 教科書 第10講 (pp.109-120)	25
11	諸外国の教育制度 — 教科書 第11講 (pp.121-132)	26
12	教育実践の基礎 — 教科書 第12講 (pp.133-144)	27
13	さまざまな教育実践 — 教科書 第13講 (pp.145-156)	28
14	生涯学習社会と教育 — 教科書 第14講 (pp.157-168)	29
15	現代の教育課題 — 教科書 第15講 (pp.169-180)	30

使用教科書

No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	教育原理	矢藤誠慈郎・北野幸子編	中央法規出版	978-4-8058-5202-6
2				
3				
4				
5				

使用教科書備考

基本保育シリーズ② 教育原理

参考書

幼稚園指導要領、保育所保育指針

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	15110
科目	専門教育科目	科目名	教育心理学		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	赤坂 和哉				
必修区分	卒保幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DPI、5、7、9				

授業目標	発達、学習、人格・適応、測定・評価など教育心理学の基礎的な理論を学び、教育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できるようにすること。特に乳幼児の心身の発達や学習について理解を深め、教育・保育の実践や支援に必要な心理学的な基礎を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学の基礎的な理論や概念を理解し、説明できる。</li> <li>・乳幼児期の心身の発達や学習について理解し、説明できる。</li> <li>・教育・保育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
予習として、配布された次回の講義で扱う資料を読み、ノートに疑問点を整理しておく。復習として、資料を用いて授業のポイント、キーワードとその意味をノートにまとめる。	
標準学修時間の目安	
1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要となる。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
定期試験後に再試験対象者へのみ、試験結果を提示する。	
評価方法	
授業への参加態度（授業内の課題・発言・ノートなど）45%、中間試験25%、期末試験30%の割合を原則として、総合的に評価します。	
その他	
4回以上欠席した場合には単位を認めません。遅刻・早退も減点します。 ※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。	

講義計画				
1	オリエンテーション、教育心理学とは	16		
2	発達①：遺伝と環境、発達の原理	17		
3	発達②：乳児期～児童期の発達課題	18		
4	発達③：思春期～青年期の発達課題	19		
5	発達④：子どもの発達理解	20		
6	学習とその理論	21		
7	記憶	22		
8	動機づけ	23		
9	言語・社会性	24		
10	知能	25		
11	パーソナリティ	26		
12	適応	27		
13	測定・評価	28		
14	発達障害	29		
15	教師の心理：まとめ	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	講義内で、プリントを適宜配布	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
1. 講義内で、プリントを適宜配布します。				
参考書				
スタンダード教育心理学、服部環・外山美樹（編）、サイエンス社、978-4-7819-1325-4				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	13240
科目	専門教育科目	科目名	家庭支援論		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	榎 ひとみ				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イブイ項目番号	DP3, 4				

**授業目標**  
 この授業では、現代の子育ての実態や家庭の現状をふまえた家庭支援のあり方を学びます。現代社会においては、親の生活や労働の条件が悪化する傾向があり、子育てに負担を感ずる親が増えています。子どもへの健全な成長・発達を守るためには、養育の主な担い手である子育て家庭への支援が求められます。親が持つ潜在的な力に着目し、親の持つ力を十分に発揮できるように、どのような支援が有効かを検討します。

**到達目標**  
 1. 家庭の意義とその機能について説明できる。  
 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況について論述できる。  
 3. 子育て家庭の支援体制について具体的に説明ができる。  
 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携についてその意義を理解し、具体化することができる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業が始まる前に必ず、学習用のノートを用意しておいて下さい。授業中、自分の考えをノートに整理して下さいます。授業日までに教科書該当ページを読み、質問や感想、自分の考えをノートに整理しておいて下さい。復習は、学習した内容をノートに分かりやすく整理しておいて下さい。

標準学習時間の目安

1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範解答を掲示します。

評価方法

授業への積極性(10%)、毎授業後の「学習のまとめシート」への記入状況(10%)、ノート提出(40%)、定期試験(40%)により評価します

その他

教科書の内容理解を深め、論点を整理するために、毎時レジュメを配布します。授業内容の具体的理解  
 ※毎回の授業の流れは、①教科書の論点整理（講義）⇒②模範解答等を用いた授業の振り返り（講義）⇒③議論の共有と「学習のまとめシート」への記入（授業の振り返り）を基本とします。

講義計画	
1	家庭の意義と機能 (教科書pp.8-13)
2	家庭支援の必要性 (教科書pp.14-21)
3	保育士等が行う家庭支援の原理 (教科書pp.22-29)
4	現代の家族と人間関係 (教科書pp.32-38)
5	地域社会の変容と子育て家庭 (教科書pp.39-45)
6	男女共同参画とワーク・ライフ・バランス (教科書pp.46-53)
7	子育て家庭支援にかかわる法体系 (教科書pp.56-64)
8	子育て家庭支援に関わる社会資源 (教科書pp.64-69)
9	子育て支援施策 - 次世代育成支援施策の推進 (教科書pp.70-75)
10	子育て支援サービスの体系とその内容 (教科書pp.78-89)
11	保育所入所児童の家庭への支援 (教科書pp.89-98)
12	地域子育て支援への支援 (教科書pp.99-107)
13	保育所における地域子育て支援事業 (教科書pp.107-111)
14	要保護児童およびその家族に対する支援 (教科書pp.111-120)
15	子育て家庭支援における関係機関との連携 (教科書pp.121-129)

使用教科書

No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				

使用教科書備考

なし

参考書

なし

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12110
科目	専門教育科目	科目名	健康		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	松田 賢一				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当ガイダンス項目番号	DPI_4				

授業目標	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うこと」をわらわらしている。健康・安全で幸福な生活を送るためには、「基本的な生活習慣の形成」と「身体諸機能の調和的発達」の両輪が大切である。しかし、近年の社会状況や子育て環境の変化によって、その両輪の育ちが危うくなっているのが現状である。本講義では、「健康」を巡る子どもたちの育ちについて様々な知識を深めることを目指す。
到達目標	1 健康とは何かを説明できる 2 人間の発達について説明できる 3 運動機能について説明できる 4 幼児の育ちに大切な事を説明できる 5 幼児の運動能力について説明できる
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	・ 毎回の授業で前回の復習をするので、事前にノートを確認し、疑問点を整理すること。
標準学修時間の目安	・ 次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。
課題（試験やレポート等）のフィードバック	単元終了毎に課題が出されるので、しっかりと取り組み、確認後、課題については、担当印を押し、学生に返却する。
評価方法	学期末においてノート提出と課題に取り組んでもらい、総合的に評価する。
その他	
毎回講義でプリントを配布する。A4のノートを用意すること。	

講義計画				
1	ガイダンス・健康とは何か	16		
2	健康の語源・定義	17		
3	新しい健康観	18		
4	子どもにとつての健康とは	19		
5	人間の発達について1(野生児の子どもの育ち)	20		
6	人間の発達について2(脳の重さについて)	21		
7	人間の発達について3(脳の神経細胞について)	22		
8	人間の発達について4(三つ子の魂百までの根拠)	23		
9	人間の発達について5(ある人間の生き方について)	24		
10	幼児の育ちに大切にしたいこと	25		
11	現代の子どもの体と運動能力について	26		
12	現代の子どもの体と運動能力についての課題とは	27		
13	幼児期の運動発達の変化と特徴について	28		
14	幼児期の運動発達の変化と特徴についての課題とは	29		
15	まとめと課題整理のための指導	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12130
科目	専門教育科目	科目名	環境		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	松本 啓				
必修区分	保幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DPI_4				

授業目標	<p>本授業は、保育内容の5領域うちの「環境」のねらいと内容をふまえ、「理想的な子どもの環境」について理論と技術を学ぶ。そのため子どもにとっての環境を、数々の事例をもとに正しく理解する。これをもとに、子どもが好奇心や探究心をもって活動できる環境について配慮・援助が行える基礎知識を身につける。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育における「環境」を説明できる。</li> <li>・子どもの発達過程におけるさまざまな環境との関わりを説明できる。</li> <li>・保育環境の具体的なデザイン・方法・考えを説明できる。</li> <li>・季節や状況に応じて、どのような保育環境を用意するかを考え、実践できる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
保育の「環境」を意識しながら、新聞・ニュースに関心をもつこと。自分の幼少期のことを思い出しながら、保育所・幼稚園の保育環境をイメージできるよう、予習・復習して授業内容を整理しておくこと。	
標準学修時間の目安	
I回の講義あたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
定期試験後（追・再試験対策日）に模範解答を掲示するとともに、希望者に解答用紙を開示する。	
評価方法	
学期末に筆記試験を行う。授業参加態度も考慮し、総合的に評価する。	
その他	
双方向の授業をすすめるので、積極的に自分の考えを発表するよう心がけてほしい。自分の幼少の頃の思い出しながら「子どもの環境」について学びたい。*	
*本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。	

講義計画				
1	保育における環境とは子どもを取り巻く環境の変化	16		
2	子どもの発達・活動と環境 幼児期の特性	17		
3	幼児の発達を促す環境条件 幼児の行動理解と保育者の援助	18		
4	植物にかかわる幼児の認識と遊び 小動物・昆虫にかかわる生活と遊び	19		
5	野外・自然にかかわる生活と遊び 「もの」にかかわる生活と遊び	20		
6	教量と図形の生活と遊び 四季の生活と環境	21		
7	幼児と情報（IT器械）環境 保育現場での環境構成	22		
8	今後の園・家庭・地域社会のあり方	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	事例で学ぶ保育内容 領域環境	無藤 隆・福元真由美	萌文書林	ISBN4-89347-098-1
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	12150
科目	専門教育科目	科目名	表現		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	山下 真由美				
必修区分	必修				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当資格	1種	科目番号	DPI_4_8		

授業目標	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」の基本的な考え方を理解し、子どもの表現に対する援助の方法を多角的に考える。また身近な素材や音への意識を高め、身体表現、造形表現、音楽表現等の様々な表現活動を通して保育者に必要な表現力を養うことをねらいとする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」のねらいや内容等の基本的な考え方を理解し、説明することができる。</li> <li>・子どもの表現を捉え、援助の方法について多角的に考えることができる。</li> <li>・主体的に表現活動を楽しむことができる。</li> <li>・様々な素材や方法を用いた表現技術を身に付ける。</li> <li>・人やモノとのかわり合いを通して、互いに認め合いながら表現することができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）
事前学習：領域「表現」の内容について、解説書に目を通しておくこと	事前学習：領域「表現」の内容について、解説書に目を通しておくこと
事後学習：学習した内容を振り返り、配布プリントやワークシートをまとめておくこと	事後学習：学習した内容を振り返り、配布プリントやワークシートをまとめておくこと
標準学習時間の目安	標準学習時間の目安
今回の講義までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい	今回の講義までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい
課題（試験やレポート等）のフィードバック	課題（試験やレポート等）のフィードバック
コメントを付したレポートを返却する。	コメントを付したレポートを返却する。
評価方法	評価方法
授業態度、発表内容、小テスト、レポートによって総合的に評価する。	授業態度、発表内容、小テスト、レポートによって総合的に評価する。
その他	その他
※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。	※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。

講義計画			
1	オリエンテーションのねらいと内容 領域「表現」のねらいと内容	16	
2	乳幼児の発達と表現 生活やあそびで活用されるレクソングの習得	17	
3	生活や遊びの中の音楽表現（レクソング・わらべ歌）	18	
4	対象者に合わせたレクリエーション活動のアレンジ（レクソング・歌遊び）	19	
5	子どもの発達を理解した身体表現とは リトミック、リズム運動の事例	20	
6	子どもの発達を理解した身体表現の実践 リトミック、リズム運動の実践	21	
7	歌うことを中心とした表現活動とは 楽しむ力を高める目標設定の方法	22	
8	現場で役立つ歌遊び 対象者に合わせたレクリエーション活動のアレンジ	23	
9	楽器遊びを中心とした表現活動とは 簡易楽器の奏法	24	
10	子どもの発達を踏まえた造形表現の取組 手作り楽器の制作と音遊び	25	
11	身近な素材を使った表現活動とは コミュニケーションを促進するための技術	26	
12	身近な素材を使った表現の考察 自然環境と表現、（レクソング）	27	
13	身近な素材を使った表現の分析 子どもの発達と表現、（レクソング）	28	
14	身近な素材を使った表現の創造、（レクソング） 表現を楽しみ創造性を養う表現活動	29	
15	表現活動の発表と省察と共感の視点から まとめ	30	
使用教科書			
No	教科書名	著者名	出版社名 ISBN
1	子どもの音楽表現	石井玲子編著	保育出版社 978-4-938795-78-8
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」			
参考書			
幼稚園教育要領、保育所保育指針、楽しみをとおした心の元気づくりレクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人 日本レクリエーション協会			

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12212
科目	専門教育科目	科目名	保育内容（健康）		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	松田 賢一				
必修区分	[選択] 幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当資格	DP1, 4				

授業目標  
 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」に関するねらいと内容を基に具体的な指導法を学ぶ授業である。子どもが健康で安全な生活をするために必要な習慣や態度を身に付けるための環境設定についての知識を深めることを目指す。幼児はあそびの中で十分体を動かすことにより、体の諸機能が発達していく、しかし、現代の子どもも運は体と運動能力に異変がおこっている。何故そのようなようになっていくかを講義での説明と実践し、その後指導案を作成し実技での模擬授業に発展させる。

到達目標  
 1 領域「健康」の考え方を説明できる。  
 2 乳幼児の発達の見方・捉え方を説明できる。  
 3 子どもものの体の状況と運動機能発達について説明できる。  
 4 指導案を作成し、模擬授業ができる。

授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）  
 ・毎回授業時に前回の復習をするので、事前にノートを見て、疑問点を明らかにすること。  
 ・実技では、教員が解説をするので、メモを取り、後にノートに整理すること。  
 ・指導案は決められた日時に提出のこと。

標準学習時間の目安

・次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック  
 ・指導案は添削後返却する。

評価方法

・ノート提出・課題・指導案・模擬授業を総合的に評価する。

その他

・A4のノートを用意すること。  
 ・プリントを配布する。  
 ・実技については別途知らせる。

講義計画		
1	領域「健康」の考え方	16
2	領域「健康」のねらい、内容・教育の基本構造	17
3	乳幼児の発達の見方・捉えかた	18
4	エリクソンの発達論	19
5	実技:無理なく全身を使って遊ぼう	20
6	実技:様々な変化に対応してみよう	21
7	実技:ボールを使って遊んでみよう	22
8	実技:心肺機能をフルに発揮してみよう	23
9	実技:神経回路を刺激してみよう	24
10	実技の内容を検証	25
11	指導案の書き方	26
12	指導案の完成・提出	27
13	指導案に基づき模擬授業を実践	28
14	模擬授業を実践しての検証	29
15	まとめと課題整理のための指導	30

使用教科書			
No	教科書名	著者名	出版社名
1	なし	-	-
2			
3			
4			
5			

使用教科書備考  
 なし

参考書  
 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12232
科目	専門教育科目	科目名	保育内容(環境)		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	松本 啓				
必修区分	[保選]幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト/チ/リ/ニ/ノ/ド項目番号	DPI, 4				

授業目標	<p>本授業は、科目「環境」で学んだことを踏まえて、環境を通して保育・教育を実践できる保育者の育成を目指す。そのために「外遊びと環境」をいかに具体的な技能を身につける。さらに学生自身の幼児期の体験を振り返りながら、「子どもの遊びと自然環境」が幼少期の人格形成にいかにか大切であるかを学ぶ。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの外遊びの現状を分析できる。</li> <li>・子どもの遊びの特徴および意義を十分に理解し、説明できる。</li> <li>・野外保育・自然体験の事前・事後の準備・活動をイメージし、立案することができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	
「子どもの外遊び」を意識しながら、新聞・ニュースに関心をもち、授業で野外に出る機会や生き物の観察、植物の栽培も行う予定であるので、自分が幼少期にどのような自然体験をしたか思い返し、積極的に取り組んでほしい。	
標準学習時間の目安	
今回の授業までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。	
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
定期試験後(追・再試験対策日)に模範解答を掲示するとともに、希望者に答案用紙を開示する。	
評価方法	
学期末に筆記試験を行うほか課題(レポート)も課す。授業参加態度も考慮し、総合的に評価する。	
その他	
双方向の授業を目指すので、積極的に自分の考えを発表するよう心がけてほしい。自分の幼少の頃を思い出しながら、「子どもの外遊び」についてしっかりと学んでほしい。 *本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。	

講義計画				
1	保育における環境とは 自然環境と生活環境	16		
2	子どもを取り巻く生活環境の変化 現代社会における子どもの環境	17		
3	子どもの遊びの現状と伝承遊び 学生の幼少期の遊びと現在の子どもの遊び	18		
4	外遊び・野外保育・自然体験の意義 野外保育の事前・事後の準備	19		
5	自然に触れることの重要性 森のよちえんの事例と解説	20		
6	外遊び・自然を身近に感じさせる取り組み 身近な動植物の観察・栽培	21		
7	自然、生き物、生命に興味・関心をもたせる絵本 子どもの遊び・活動中のヒヤリ・ハット事例	22		
8	子ども向けの環境教育活動	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし(授業時にプリント配布)	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
なし				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12252
科目	専門教育科目	科目名	保育内容(表現)		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	山下 真由美				
必修区分	[保選]幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当科目コード	DPI_4_8				
授業目標	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼児連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」のねらい・内容を学習した上で、子ども達の発達過程に則した表現活動を理解し適切な指導・援助が行えるよう実践的な方法を学ぶことをねらいとする。また、実践的な方法を保育構想にいかすことができるように模擬保育に取組むとともに、実施後に課題考察・改善できる力を身に付ける。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の発達段階と表現の関係の説明ができる。</li> <li>・習得した様々な表現技術を用いて模擬保育を構想・展開することができる。</li> <li>・手遊びの知識を深め、場や状況に応じた選曲やアレンジを行うことができる。</li> <li>・領域「表現」のねらいを理解し、指導計画を作成できる。</li> <li>・指導計画を基に模擬保育を実践し、保育を改善・向上することができる。</li> </ul>				
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)				
復習に重点を置き、各自で授業内容をノートに記録しておくこと。手遊びの実践に関しては輪番制のため、事前準備が必要である。					
標準学習時間の目安					
1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。					
課題(試験やレポート等)のフィードバック					
課題(試験やレポート等)提出期限後の授業でコメントを付した課題(試験やレポート等)を返却する。					
評価方法					
発表、提出課題、模擬保育、授業への積極性を総合的に評価する。					
その他					
*本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。					

講義計画					
1	オリエンテーション(授業の目的・内容・進め方、教職履修カルテの確認)	16			
2	乳幼児の発達と表現 乳幼児の認識・思考・動きへの配慮	17			
3	様々な表現技術・(音楽的表現) 音と動き、リズム	18			
4	様々な表現技術・(造形的表現) 子ども達の発達段階の理解、素材の出会い	19			
5	様々な表現技術・(ドラマによる表現) ドラマによる表現とは、情報機器の活用	20			
6	ドラマの表現を用いた表現遊び 主体的・対話的深い学びの保育の構想	21			
7	様々な表現技術・(身体表現) 共感と受容、情報機器の活用・教材の工夫	22			
8	表現遊びを中心とした指導案の作成と留意点 評価と考察	23			
9	グループワークによる指導案の作成 具体的な保育を構想した指導案づくり	24			
10	幼児の発達や領域「表現」の内容に則した指導計画 の確認	25			
11	模擬保育の準備 指導上の留意点の確認	26			
12	模擬保育の準備 表現技術の工夫	27			
13	模擬保育の実践 教員間の連携、共感を育む保育実践	28			
14	模擬保育の省察 保育実践の動向考察と保育改善の視点	29			
15	まとめ 教職履修カルテの記入	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	—	—	—	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
授業で適宜資料を配布する。					
参考書					
保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼児連携型認定こども園教育・保育要領					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	1111
科目	専門教育科目	科目名	音楽基礎		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数
教員	山下 真由美/高橋 セリカ				
必修区分	[保選] [初選]				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目(選択)				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP1				

授業目標	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育における指導者に必要とされる基礎的音楽理論の理解、音楽鑑賞力、楽譜を読み記されている内容を理解して歌う力、音楽を表現する力などの音楽の基礎力を培う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単旋律の楽譜を見て階名唱することができる。(サリ各2つまでの長・短調)</li> <li>・大譜表と鍵盤との位置関係が分かり、書いた音名で読んだりすることができる。</li> <li>・楽譜上の基礎的なリズムを表現することができる。</li> <li>・楽譜上の音符や休符の種類、調やテンポ、音程、速度標語や音楽記号を指摘することができる。</li> <li>・主要三和音やコード、根音や和音を基にする簡易伴奏について理解し、伴奏付けができる。</li> <li>・声や発声のしくみを理解し、童謡や子ども歌を歌唱することができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の復習と毎回示された課題に取り組む。</li> <li>・音楽理論(楽典)とソルフェージュ(音楽実技を伴う音楽基礎・基本の理解)の往還を通して、幼児教育に必要なとされる音楽基礎力を総合的に培う。</li> </ul>
標準学習時間の目安	<p>次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。</p>
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
課題の返却とソルフェージュ実技に対するアドバイスを行う。	
評価方法	
授業内で実施する課題や学習の定着度を総合的に判断する。	
その他	
授業において、ソルフェージュと(楽典)音楽理論に取り組むとともに、相互の関連を図り、幼児教育に必要な音楽の基礎知識理解の講義を行う。	

講義計画					
1	オリエンテーション、幼児教育における音楽基礎力とは	16			
2	楽典基礎(音符と休符、リズムと拍子)①ソルフェージュ基礎(リズム打ち)、校歌	17			
3	楽典基礎(音符と休符、リズムと拍子)②ソルフェージュ基礎(リズム打ち)、学園歌	18			
4	楽典基礎(音名、変化記号)①ソルフェージュ基礎(階名唱)、声のしくみ	19			
5	楽典基礎(音名、変化記号)②ソルフェージュ基礎(階名唱)、発声の理解	20			
6	楽典基礎(音階)①ソルフェージュ基礎(音階の理解)、発声	21			
7	楽典基礎(音階)②ソルフェージュ基礎(音階の実技)、歌唱	22			
8	楽典基礎(音程)①ソルフェージュ演習(音程の理解)、歌唱	23			
9	楽典基礎(音程)②ソルフェージュ演習(音程の実技)、歌唱	24			
10	楽典(調と調号)①移動ドの理解ソルフェージュ演習(調号理解の実技)	25			
11	楽典(調と調号)②移動ドの理解と歌唱ソルフェージュ演習(調号理解の実技)	26			
12	楽典(和音・主要三和音)①コダーインシステムの理解	27			
13	楽典(和音・主要三和音)②コダーインハンドサインの理解・歌唱	28			
14	楽典(コード)ソルフェージュ演習、歌唱ハモニーの理解	29			
15	音楽基礎の総合的理解と幼児教育への活用	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	はじめての楽典ブック	長沼由美、二藤弘美 著	備考欄記載	978-4636885422	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
「はじめての楽典ブック ミッキーといっしょ」 長沼由美、二藤弘美 著 出版社：ヤマハミュージックメディア					
参考書					
・ポケット音楽辞典、堀内久美雄、音楽之友社 ・幼児の音楽教育、音楽教育研究協会編					
・授業において適宜資料を配布する。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	11121
科目	専門教育科目	科目名	造形表現基礎		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	輪島 進一				
必修区分	[保選] [幼選]				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目(選択)				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP1				

授業目標	<p>保育者としての造形表現の専門的な内容を習得するために、造形の基本要素である「形」及び「色彩」の各概念を理論・演習を通して経験的に理解し、基礎的な造形表現技能を習得する。</p>
到達目標	<p>・造形活動の基本である、「見ること」「イメージすること」による表現や制作に慣れる。          ・外界に存在する形の基本的な見方・捉え方ができ、イメージに沿って表現できる。          ・造形表現の基本を踏まえ、その概要を理解し、楽しむことができる。</p>
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	<p>・実技演習では、作品完成へ向けての制作時間に個人差が見られるため、授業外時間を必ず確保し完成させること。放課後制作及び自宅へ持ち帰る。          ・随時プリント(担当者作成)配布。復習に重点を置き、日頃より人間の造形文化活動や自然の形態に関心を持ち、美術展等の鑑賞を続ける。</p>
標準学修時間の目安	<p>・1回の講義・演習あたり、予習・復習を含めて、4時間の学修時間が望ましい。</p>
課題(試験やレポート等)のフィードバック	<p>・課題提出期限後の授業で横断的な課題を紹介する。</p>
評価方法	<p>・提出作品(80%) 受講態度(20%)</p>
その他	<p>・総の具セット、その他の道具類は図画工作Ⅰと重複する。          ・予定の計画で行うが、実技演習が加わるため、時間配分に調整の場合がある。          ・実技演習を行う講義のため、準備及び後片付けをしつかり行うことも学習内容とする。</p>

講義計画					
1	授業の目的・内容の概要 子どもの見方・捉え方①	子どもの表現の本質	16		
2	子どもの見方・捉え方② 子どもの見方・捉え方③	幼児前期の表現 幼児後期の表現	17		
3	大人の見方・捉え方① 大人の見方・捉え方②	子どもの見方との相違 大人を表現する	18		
4	大人の見方・捉え方③ 大人の見方・捉え方④	立体感を表現する 子どもの比較検証	19		
5	造形表現を楽しむ① 造形表現を楽しむ②	色の理解 色の作り方	20		
6	造形表現を楽しむ③ 造形表現を楽しむ④	形を捉える 形を表現する	21		
7	造形表現を楽しむ⑤ 造形表現を楽しむ⑥	色と形の構成・イメージ作り 色と形の構成の実際	22		
8	造形表現を楽しむ⑦	合評会 ※45分授業	23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
なし					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12170
科目	専門教育科目	科目名	保育内容総論		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	三島 裕一				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当する「コア・ポリシー」項目番号	DPI-2, 3, 5, 6, 8				

授業目標	「保育所保育指針」に示されている「領域」の概念を理解し、5領域が実際の保育場面における遊びや生活の中でのどのように展開されるのかを総合的に理解することがこの授業の目標です。乳幼児一人ひとりの個性に応じた生活や遊びが保障される環境のあり方、教材の工夫、保育者の援助などが一体となって、保育が展開されていくことを具体的な事例を参照しながら、保育内容の理解を深めていきます。
到達目標	1. 保育所保育指針「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」に関連付け保育内容を理解できる。 2. 保育所保育指針の各章のつながりがより読み取り、保育の全体的な構造を理解することができる。 3. 保育内容を歴史的背景や変遷および子ども理解との関連で理解することができる。 4. 子どもたちの発達特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点から理解できる。 5. 子どもたちの生活全体を通して、養護と教育の一体的な展開を具体的な保育実践から理解できる。 6. 保育の多様な展開について具体的に理解することができる。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
事前学習：授業に関連する項目について、「保育所保育指針」を熟読しておくこと 事後学習：授業で学んだことをノートに整理しておくこと	
標準学修時間の目安	
1回の講義あたり、0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
課題（レポート・試験）提出期限後に模範的な課題（レポート・試験）を紹介する。	
評価方法	
授業への積極性（10%）、レポート（30%）、期末試験（60%）によって総合的に評価する。	
その他	
毎回の授業で、『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説』『幼児連携型認定こども園 教育・保育要領解説』を使用しますので、必ず持参してください。	

講義計画					
1	保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解	16			
2	保育の全体構造と保育内容	17			
3	保育内容の歴史の変遷	18			
4	子どもの発達の特徴と保育内容	19			
5	個と集団の発達と保育内容	20			
6	保育における観察と記録	21			
7	養護と教育が一体的に展開する保育	22			
8	環境を通して行う保育	23			
9	遊びによる総合的な保育	24			
10	生活や発達の連続性に配慮した保育	25			
11	家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育	26			
12	保育の多様な展開～乳児保育	27			
13	保育の多様な展開～長時間保育	28			
14	保育の多様な展開～特別な支援を必要とする子どもの保育	29			
15	保育の多様な展開～多文化共生の保育	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	保育所保育指針	厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81241-9	
2	幼稚園教育要領	文部科学省	文部科学省	978-4-316-30012-2	
3	保育所保育指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	978-4-577-81242-6	
4	幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81245-7	
5	教育・保育要領解説	使用教科書備考欄参照	フレーベル館	978-4-577-81373-7	
使用教科書備考					
5. 幼児連携型認定こども園 教育・保育要領解説 著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省					
参考書					
なし					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	16110
科目	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅰ		
配当年次	1年	期間	通年		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数
教員	松田 賢一/榊 ひとみ				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DPI-2, 3, 4, 5, 7, 9				

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。</li> <li>・実習施設に於ける子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。</li> <li>・実習の計画、観察、実践、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義を概説できる。</li> <li>・実習の目的や内容、自己課題を説明できる。</li> <li>・実習の計画を理解し、自己点検できる。</li> <li>・実習中の記録を確実に記すことができる。</li> <li>・実習の総括と自己評価から、新たな課題や目標を説明できる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）	
・保育実習指導ファイルを整理して、毎回持参すること。 ・やむなく欠席した場合は、授業担当者を訪ね個別に授業内容を確認すること。	
標準学修時間の目安	
・予習、復習を含めて2時間の学修が望ましい。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
・指導案や見学時レポート等は担当者が確認後に返却する。	
評価方法	
・教材研究の課題・発表、施設見学レポート ・実習課題・実習日誌・ファイル等の記録 ・実習報告書、実習報告発表会の内容 これらを総合的に評価する。	
その他	
・保育所保育指針解説を携行すること。 ・実習ファイルは整理して、毎時間持参すること。（2年次も使用します）	

講義計画			
1	保育実習Ⅰの意義、目的、内容について	16	実習希望調査書の提出、確認、調整 保育所の子育て機能を知る
2	実習方法の理解 関連法規や保育所保育指針の位置づけ	17	施設見学オリエンテーション
3	保育実習Ⅰ保育所の実習について	18	児童福祉施設の見学、参観①児童養護施設の概要説明
4	保育実習Ⅰ施設の実習について	19	児童福祉施設の見学、参観②児童養護施設内の見学
5	保育計画の実際①～保育課程や指導計画	20	児童福祉施設の見学、参観③障害者入所施設の概要説明
6	保育計画の実際②～日案、部分指導案の立案と実践	21	児童福祉施設の見学、参観④各障害者支援施設の見学
7	保育内容の研究①～手遊び	22	保育実習Ⅰ施設、保育実習Ⅲについて
8	保育内容の研究②～絵本・紙芝居	23	実習関連書類の作成
9	保育計画の実際③～部分指導案の検討	24	実習中の子どものかかわり
10	保育内容の研究③～ジャンケン遊び	25	実習記録の意義と内容、方法
11	保育内容の研究④～素話	26	実習の評価と観点
12	保育計画の実際④～部分指導案の修正	27	実習生としての心構え
13	実習に向けた基礎・基本	28	自己課題の設定と発表（訪問指導者による）
14	保育実習の学び：先輩に学ぶ	29	実習直前ガイダンス（全体）、実習園事前訪問オリエンテーション
15	実習園調査と実習希望調査書の記入について	30	実習報告会、実習事後指導
使用教科書			
No	教科書名	著者名	出版社名 ISBN
1	保育者養成シリーズ 保育実習	高橋弥生・小野友紀編著	一藝社 978-4-86359-046-5
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
保育者養成シリーズ 保育実習			
参考書			
保育所保育指針及び解説書 幼少年教育研究所編 同文書院 授業で紹介します。遊びの指導			

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	14210
科目	専門教育科目	科目名	子どもの保健Ⅱ		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	川村 幾代				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DPI, 4, 5				

授業目標

子どもの保健Ⅰの内容を技術等でより具体的に学び、保育者として実践的な技術を身につける。

到達目標

1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について理解・説明できる。
2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を検討できる。
3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に理解できる。
4. 救急時の対応や事故防止・安全管理について具体的に理解できる。
5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解できる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

- ・子どもの保健Ⅰで学習した内容の復習を十分しておくこと。
- ・演習に臨む際は、事前に予習を行い、内容の把握と（必要物品も含めて）準備しておくこと。

標準学習時間の目安

1回の講義当たり、2時間の予習と2時間の復習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者へのみ、課題（試験）を返却する。

評価方法

試験、受講態度、演習の取り組み、レポートを総合的に評価する。

その他

なし

講義計画					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	保健活動の計画及び評価 オムブマンヨ	子どもの保健Ⅱとは何を学ぶのか			16
2	事故防止及び健康安全管理 救急処置及び救急蘇生の習得				17
3	保育における看護と応急処置 バイタルサインの測定				18
4	身体測定と養育評価の仕方 手洗い、嘔吐物の処理				19
5	子どもの疾病と適切な対応 個別的な対応を必要とする子どもへの対応				20
6	自閉症スペクトラムの理解 発達障害を持つ子への適切な対応				21
7	子どもの保健と環境とは 子どもの保健の環境作りの実際				22
8	子どもの生活習慣について、菌の健康について学ぶ				23
9					24
10					25
11					26
12					27
13					28
14					29
15					30
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	-	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
子どもの保健Ⅰと同じ教科書を使用します。					
参考書					
必要に応じてプリントを配布します。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12120
科目	専門教育科目	科目名	人間関係		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	木村 美佐子				
必修区分	保幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト項目番号	DPI, 4, 8				

授業目標	<p>本授業は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定子ども園教育・保育要領における領域「人間関係」の内容を理解した上で、保育の方法を学ぶことを目標とする。加えて、自己の人間関係を振り返り、自己理解を深め、子どもや保護者と豊かな人間関係を築くことのできる保育者を目指す。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育の基本を理解し、領域「人間関係」の特質を説明できる</li> <li>・幼児のひととの関わりに関する現代的課題を説明できる</li> <li>・乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる</li> <li>・自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	<p>事前学習 ・次回の講義内容を確認し、教科書の該当する章をよく読んでおくこと 事後学習 ・授業の到達目標を確認し、その日の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと</p>
標準学習時間の目安	<p>・1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい</p>
課題（試験やレポート等）のフィードバック	<p>・定期試験後（追・再試験対象発表日）に模範的な解答を掲示する。 ・定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（解答用紙等）を返却する。</p>
評価方法	<p>授業への積極性（10%） 提出プリント（20%） 試験（70%）</p>
その他	<p>・講義の中で適宜プリントを配布する。 ※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。</p>

講義計画	
1	オリエンテーション 領域「人間関係」の特質 16
2	領域「人間関係」のねらいと内容 17
3	「人間関係」に関わる現代社会の状況①（事例検討） 18
4	「人間関係」に関わる現代社会の状況②（グループワーク） 19
5	乳幼児期の発達と人間関係①（ひととの関わり）の基礎 20
6	乳幼児期の発達と人間関係②（他者との関わり） 21
7	乳幼児期の発達と人間関係③（自我の発達） 22
8	家族や地域との関わり 23
9	保育者との関わり 24
10	個と集団の育ち 25
11	幼児期の道徳性とその発達を促す経験 26
12	豊かな人間関係を育む保育者①（育ちを支える） 27
13	豊かな人間関係を育む保育者②（保護者や保育者との関わり） 28
14	豊かな人間関係を育む保育者③（自己の人間関係） 29
15	まとめ（授業の振り返り、教職カルテの記入等） 30

使用教科書			
No	教科書名	著者名	ISBN
1	実践保育内容シリーズ人間関係	小櫃智子・谷口明子編著	978-4-86359-073-1
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
なし			
参考書			
保育所保育指針 幼稚園教育要領 認定子ども園教育・保育要領			

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	12140
科目	専門教育科目	科目名	言葉		
配当年次	1年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	三島 裕一				
必修区分	保幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当ガイダンス項目番号	DPI, 4, 8				

授業目標	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「言葉」を理解し、子どもが言葉を通じて言葉を豊かに育つための環境や適切な援助を学び、言葉を豊かに育て自己表現できるための保育者の役割を理解する。言葉のイメージを広げる児童文化財や遊び等の保育環境と言葉のかかわりを知り、実践に向けた指導案の作成や教材研究をすることをねらいとする。</p>
到達目標	<p>「言葉」の発達を説明できる。          ・ 幼児期の「言葉」の発達にかかわる保育者の役割を説明できる。          ・ 「言葉」のイメージを豊かにする遊びや児童文化財を教材研究しそれらを活用した指導案の作成や実践ができる。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
授業の復習を行い、講義内容やプリントをノートに整理すること。 ・ 図書館等で児童文化財に目が届くことが望まれる。	
標準学習時間の目安	
・ 1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学習が望ましい。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
・ 各期の成績確定後、全員にコメントを付した課題レポート等を返却する。	
評価方法	
・ ノート、ミニ課題、課題レポートを総合的に評価する。	
その他	
<p>・ 教科書は1年後期の「保育内容（言葉）」においても使用する。          ・ 本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。</p>	

講義計画					
1	オリエンテーション 領域とは何か、児童文化財とは何か	16			
2	言葉の発達（言葉の獲得）～乳児期	17			
3	言葉の発達（言葉の獲得）～幼児期	18			
4	言葉の発達（言葉の理解とは）	19			
5	言葉の発達（言葉による思考とは）	20			
6	保育内容「言葉」（領域）の目標と内容	21			
7	保育内容「言葉」（領域）における内容の取り扱 い	22			
8	言葉の発達を促す援助（保育の計画や実践）	23			
9	言葉を豊かにする環境や児童文化財の教材研究	24			
10	言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指 導案作成	25			
11	指導案の実践	26			
12	言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した実 践交流	27			
13	現代社会と言葉の発達	28			
14	幼児の言葉と保育者の役割	29			
15	言葉の発達を促す保育者とは （まとめと振り返り、教職履修カルテの記入）	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	保育内容ことば	成田 徹男編	(株)みらい	978-4-86015-183-6	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説書					



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12242
科目	専門教育科目	科目名	保育内容(言葉)		
配当年次	1年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	三島 裕一				
必修区分	[選択] 幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当イ/II/III/IV/項目番号	DPI, 4, 8				

授業目標

領域「言葉」は、他の領域と常に関係をもちつつ、相互的かつ総合的な役割を果たす領域であることを踏まえ、豊かな言葉を育む保育のあり方や保育者の役割を実践的に理解する。また、児童文化財や遊び等の保育環境をデザインする実践力を学ぶことをねらいとする。

到達目標

- ・幼児期の豊かな自己表現をするための「言葉」を育む、保育者の役割や保育環境を説明できる。
- ・発達に応じた児童文化財や遊びを通し、言葉の育ちをイメージしながら実践できる。
- ・言葉のかかわりに配慮を要する子どもへの援助や保護者支援のあり方を説明できる。

授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)

- ・前期授業の復習を行い、講義内容やプリントをノートに整理すること。
- ・図書館等で児童文化財に自らが見ることが望まれる。

標準学修時間の目安

- ・1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題(試験やレポート等)のフィードバック

- ・各期の成績確定後、全員にコメントを付した課題レポート等を返却する。

評価方法

- ・ノート、指導案、グループワーク実践、課題レポートを総合的に評価する。

その他

※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。

講義計画

1	・オリエンテーション	16
2	・乳幼児期の「言葉」の発達と他領域との関係	17
3	・「言葉」と5領域とのつながり	18
4	・子どもの育ちに見る保育内容「言葉」	19
5	・遊びで育つ、育てる「言葉」と保育者	20
6	・ことばで遊ぶ(様々な児童文化財に触れる)	21
7	・児童文化財や遊びの指導(指導案の作成)	22
8	・児童文化財や遊びの指導(グループワーク)	23
9	・児童文化財や遊びの指導(グループでの教材研究) 教材製作と練習	24
10	・児童文化財や遊びの指導(実践発表)	25
11	・児童文化財や遊びの指導(意見交流)	26
12	・日常保育における言葉の機能	27
13	・言葉のかかわりに配慮を要する子ども	28
14	・言葉を育てる保育者として(授業の振り返り)	29
15	・豊かな言葉を育てるとは(まとめ)	30

使用教科書

No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	児童文化	皆川美枝子 武田京子編著	ななみ書房	978-4-903355-43-6
2				
3				
4				
5				

使用教科書備考

- ・1年前期の「言葉」のテキストも使用する。

参考書

保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領及び解説書

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	14250
科目	専門教育科目	科目名	幼児体育		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独
教員	松田 賢一				
必修区分	保 [幼選]レ				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目 (選択)				
該当資格 / 対応科目番号	DPI_4.5.9				

授業目標	<p>私たち人間には、一生を通じて運動を身につけるのに適した時期が3つあるといわれている。その第1期が幼児期である。本講義では、現在の子ども達の体の変化の理解と人間の運動のメカニズムの知識を深めることを目指す。さらに、幼児期に必要な基本的運動能力を促すための多様な運動を実際に実技で実践する。後半は、その応用として、身体・音楽・造形・言語表現のまともとして「創作幼児体育」をグループで作成し、発表してもらおう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現在の子ども達の体の変化について説明できる。</li> <li>2 向成幼児期に体育が必要か説明できる。</li> <li>3 多様な運動遊びについて説明できる。</li> <li>4 子どもの発達と身体・音楽・造形・言語表現について説明できる。</li> </ol>
授業外に行うべき学習 (予習・復習、準備学習)	
・毎週の講義で前回の復習をするので、ノートを用いて学修し、疑問点を整理すること。	
・実技では、教員が解説をするので、メモをとり、ノートに整理をすること。	
標準学修時間の目安	
・次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。	
課題 (試験やレポート等) のフィードバック	
・指導案、ノートは教員が確認後返却する。	
評価方法	
学期末において、ノート提出と創作幼児体育の取り組みを総合的に評価する。	
その他	
A4のノートを用意すること。プリントを配布する。 本科目は幼稚園教諭二種免許の「教科に関する科目 (選択)」である。 本科目は保育士資格必修科目である。	

講義計画					
1	ガイダンス、幼児に何故体育が必要か	16			
2	講義: 幼児に何故体育が必要かディスカッション	17			
3	講義: 現在の子ども達のからだの変化について	18			
4	講義: 現在の子ども達の運動能力について	19			
5	実技: 子ども達が楽しめる組立体操(一人・二人技)(気持ちは一つにするコミュニケーション技術)	20			
6	実技: 子ども達が楽しめる組立体操(三人技)(楽しむ力を高める目標設定の方法)	21			
7	実技: 子ども達が楽しめる組立体操(六人技)(スポーツレクリエーション)	22			
8	実技: 敏捷性を養う鬼ごっこあそび (身体活動①)	23			
9	実技: 円を使っている鬼ごっこあそび (身体活動②)	24			
10	実技: 全身を使っている鬼ごっこあそび (身体活動③)	25			
11	創作幼児体育の説明、グループ編成(レク活動の相互作用促進のコミュニケーション技術)	26			
12	創作幼児体育内容決定 指導案作成(レクリエーション支援活動の手段の習得)	27			
13	体育館で書くグループ毎に指導案に沿って練習(暖かくもてなす意識と配慮)	28			
14	創作幼児体育各グループ毎にリハ・サークル(アイズブレッキング)の効果を高める技術・プログラム)	29			
15	創作幼児体育発表会、まとめ・ノート整理	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
幼児期運動指針、「楽しさをとおした心の元気づくりレクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人 日本レクリエーション協会					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	13220
科目	専門教育科目	科目名	相談援助		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	川村 幾代				
必修区分	保主				
教育職員免許法に基づく分類					
該当資格	1, 2, 3, 4, 5, 7, 8				

授業目標	<p>保育における相談援助とは、子どもを中心に保護者と保育者が手を取り合いながら子育てする仲間になることだとイメージして下さい。そのために、子どもや保護者の「声」に気づき、理解し、ともに考え、ときには代弁し、必要な社会資源につなげる力を培うために相談援助技術の学びを深めていきます。</p>
到達目標	<p>1. 相談援助の概要について理解する  2. 相談援助の方法と技術について理解する。  3. 相談援助の具体的展開について理解する。  4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
育児不安、子育て支援、児童虐待に関するニュースに関心をもち社会事象の把握に努めること。	
標準学修時間の目安	
次回の講義までに予習復習を含めて4時間の学修が望ましい	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
定期試験後に再試験対象者へのみ課題（レポート）を返却する。	
評価方法	
課題、授業内でのレポート、授業態度を総合して評価します。	
その他	
特になし	

講義計画				
1	オリエンテーション 保育実践と相談援助	16		
2	相談援助の定義と体系 社会福祉援助の展開	17		
3	子ども・子育て支援とは 児童養護施設における相談援助とは	18		
4	保育場における個別援助技術 ケース検討	19		
5	傾聴①ノンバーバルコミュニケーション他 傾聴②質問のコツ ロールプレイ	20		
6	グループワーク 親の悩みに応えて答える 個人面談のロールプレイ	21		
7	保育現場における集団援助技術 保育現場における地域援助技術	22		
8	事例研究とまとめ	23		
9		24		
10		25		
11		26		
12		27		
13		28		
14		29		
15		30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	社会福祉援助技術	松本寿昭	同文書院	978-4-8103-1382-6
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
保育・教育ネオシリーズ8 社会福祉援助技術				
参考書				
必要時プリントを配布します。				



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	15310
科目	専門教育科目	科目名	臨床心理学		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独
教員	赤坂 和哉				
必修区分	[保選]				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/ヘ/ヘ/ト/チ/テ/ト/チ/テ/ト/チ/テ	DPI、5.7				

授業目標	<p>本講義では、心理学の分野で人間の「心」の健康と病理をどのように捉えてきたのか概観し、子ども心の心理的問題を把握するためのアセスメントや心理療法に関する基礎的な理論・技法を学ぶ。保育者として、子ども心の発達や養育者のメンタルヘルスに関する問題および支援ニーズを適切に把握・理解し、心理的援助のためのアプローチを検討できるようになることを目指す。</p>
到達目標	<p>・臨床心理学の基礎的な理論や概念を理解し、説明できる。          ・心理学的アセスメントや心理療法に関する基礎的な理論・技法を理解し、説明できる。          ・子ども自身の発達や養育者のメンタルヘルスに関する問題に適切に把握・理解し、心理的援助のためのアプローチを検討できる。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	<p>事前学習：今回の講義内容を確認し、関連図書などをよく読んでおくこと。          事後学習：講義内容を振り返りながら、配布資料等を熟読し、重要な専門用語を覚えておくこと。また疑問点については、関連図書を調べるなどして解決するようしておくこと。</p>
標準学習時間の目安	<p>今回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。</p>
課題（試験やレポート等）のフィードバック	<p>講義内で提出した課題（試験やレポート等）については、今回の講義で模範的な課題（試験やレポート等）を紹介する。期末試験については、試験後、再試験対象者へのみ課題（試験やレポート等）を返却する。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度（授業内の課題・レポート・発言等）45%、中間試験25%、期末試験30%の割合を原則として、総合的に評価する。</p>
その他	<p>出席は全体の5分の4以上が必要です。遅刻・早退も減点します。</p>

講義計画					
1	臨床心理学とは	16			
2	パーソナリティ理論	17			
3	心理学的アセスメントの基礎	18			
4	心理学的アセスメントの技法	19			
5	心理療法の基礎	20			
6	心理療法の技法①：精神分析、来談者中心療法	21			
7	心理療法の技法②：認知療法、行動療法	22			
8	心理療法の技法③：遊戯療法、芸術療法	23			
9	心理的援助①：自閉症スペクトラム障害、ADHD	24			
10	心理的援助②：言葉の育ちと遅れ	25			
11	心理的援助③：チック	26			
12	心理的援助④：不安に関連する問題、選択性緘黙	27			
13	心理的援助⑤：アタラクシメント障害、PTSD	28			
14	養育者のメンタルヘルス	29			
15	保育者のメンタルヘルス 他の専門家との連携・協働	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
改訂新版 保育カウンセリングへの招待 富田久枝・杉原一昭 北大路書房 臨床心理学 丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・佐々木淳・杉山明子 有斐閣					



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	13330
科目	専門教育科目	科目名	社会的養護内容		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	家村 昭矩				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP2,3,4				

授業目標	1年次の社会的養護の講義で習得した社会的養護に関する基礎知識をふまえ、社会的養護における実際場面を学ぶこととさらに認識を深め、社会的養護を構成する施設養護や家庭養護についての実践的把握を目指すことを授業目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利擁護を前提とした、保育士の役割について理解・説明できる。</li> <li>・施設養護や家庭養護を社会的養護の実際という観点から理解・説明できる。</li> <li>・施設養護のプロセス理解・援助・技術を理解・説明できる。</li> <li>・自立支援計画や社会的養護連携の重要性を理解・説明できる。</li> <li>・社会的養護と保育士の関連について専門的に理解・説明できる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）	テキストと配布されたプリントをもとに、学習内容の定着を図ること。
テキストと配布されたプリントをもとに、学習内容の定着を図ること。	
標準学習時間の目安	今回の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。
課題（試験やレポート等）のフィードバック	各授業ごとのミニレポート作成と提出を課すが、今回の演習時間に全体的コメントを予定。
評価方法	課題提出、演習への取り組み状況、受講態度を総合的に評価する。
その他	必要に応じてプリントを配布する。

講義計画				
1	オリエンテーション（子どもの権利擁護とは）	16		
2	今日の社会的養護と保育士	17		
3	施設養護と子ども（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設）の現況①	18		
4	施設養護と子ども（情緒障害居短期治療施設、児童自立支援施設、障害児施設）の現況②	19		
5	家庭養護と子ども（里親制度、ファミリーホーム事業、養子縁組制度）の現況	20		
6	施設養護のプロセス理解（問題点、視点、留意点）	21		
7	保育士の基本的社会的養護援助・支援	22		
8	施設養護におけるところどころの援助・コミュニケーション	23		
9	施設における親子関係の援助	24		
10	社会的養護施設と地域・学校との連携・関係づくり	25		
11	自立支援・援助を考える	26		
12	自立支援計画の作成とポイント	27		
13	児童福祉施設の管理運営と権利擁護	28		
14	児童福祉施設における保育士の資質を考える	29		
15	児童福祉施設における保育士の倫理と専門性	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	社会的養護内容	相澤仁、村井美紀	中央法規	978-4-8058-5218-7
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
基本保育シリーズ 社会的養護内容 相澤仁、村井美紀 中央法規				
参考書				
なし				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	15210
科目	専門教育科目	科目名	発達心理学		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	赤坂 和哉				
必修区分	保[幼選]				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目(選択)				
該当する「コア・コンピテンシー」項目番号	DPI_5.7.9				

授業目標	子どもの心身の発達や成長を促す保育を進める上で、保育者が一人一人の子どもの発達を理解し、発達段階や個人差に応じた適切な関わりをすることが重要である。本講義では、(1)子どもの発達と保育実践 (2)生活や遊びを通じた学びの過程、(3)保育における発達援助、の3つの側面について、発達心理学の基礎的な理論と保育実践とを結びつけながら理解を深めることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の発達と保育実践について理解し、説明することができる。</li> <li>・生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、保育実践との関連で考察することができる。</li> <li>・特別な配慮が必要な子どもに対して、保育の場における発達援助の方法と技術を習得する。</li> </ul>
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	事前学習：今回の講義内容を確認し、関連図書などをよく読んでおくこと。 事後学習：講義内容を振り返りながら、配布資料等を熟読し、重要な専門用語を覚えておくこと。また疑問点については、関連図書を調べようとしておくこと。
標準学習時間の目安	今回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。
課題(試験やレポート等)のフィードバック	講義内で提出した課題(試験やレポート等)については、今回の講義で模範的な課題(試験やレポート等)を紹介する。期末試験については、試験後、再試験対象者へのみ課題(試験やレポート等)を返却する。
評価方法	授業への参加態度(授業内の課題・レポート・発言等)40%、期末試験60%の割合を原則として、総合的に評価する。
その他	出席は全体の5分の4以上が必要です。遅刻・早退も減点します。

講義計画				
1	子ども理解における発達の把握	16		
2	個人差や発達過程に応じた保育	17		
3	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用	18		
4	環境としての保育者と子どもの発達	19		
5	子どもの相互のかかわりと関係づくり	20		
6	子ども集団と保育の環境	21		
7	子どもの生活と遊び	22		
8	子どもの遊びと学び	23		
9	基本的生活習慣の獲得	24		
10	自己主張と自己統制	25		
11	主体性の形成	26		
12	生涯にわたる生きる力の基礎を培う	27		
13	発達と学びの連続性と就学支援	28		
14	発達援助における協働	29		
15	現代社会における子どもの発達と保育の課題	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
基本保育シリーズ⑨ 保育の心理学II 公益財団法人児童育成協会(監)、清水益治・森俊之・杉村伸一郎(編) 中央法規、保育所保育指針、幼稚園教育要領				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	13320
科目	専門教育科目	科目名	保育相談支援		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	小岩 眞智子				
必修区分	保				
教育職員免許法に基づく分類					
該当科目・ポリシー項目番号	DP1-2, 3, 5, 7, 8				

授業目標	<p>少子化、核家族化、女性の社会進出等が進む中で、子育ての課題が山積し、保育ニーズも多様化しているこれを受け、保育士には、保護者からの保育に関する相談を受け、助言する業務が加えられた。本授業は、保育士が子育てのパートナーとしての役割として、保護者個々の子育てに関する思いや願い、不安や悩み等に寄り添い、保護者自身が子育ての意欲や養育力を高めることのできる相談や支援の在り方について、具体的に学ぶことを目標とする。</p>
到達目標	<p>1. 保育相談支援の意義と原則について理解し、説明できる。  2. 保育相談支援の基本を理解し、説明できる。  3. 保育相談支援の在り方を学び、内容や方法について話し合うことができる。  4. 保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実践を理解し、実践の仕方を話し合うことができる。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
・予習：次のテーマや内容を確認し、関連図書等を調べて、課題についてまとめ、授業に持参する。 ・復習：ノートや配付資料を読み返し、要点となる知識や技能、態度等について覚えやすいようにまとめる。	
標準学習時間の目安	
・1回の授業にあたり、予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
・課題やレポート等の提出物については評価とコメントを付して返却する。 ・概観的な回答例を授業時に紹介する。	
評価方法	
・授業における課題理解と参加態度（30%） ・レポートの内容（20%） ・筆記試験（50%）	
その他	
・授業時間については、1回目から7回目までは90分、8回目は45分とする。 ・配布資料及び課題については、順番に綴じて保管する。	

講義計画			
1	授業の目標と内容、進め方等の確認 保育相談支援の意義と特性	16	
2	基本①：子どもの最善の利益と福祉の重視 基本②：子どもの成長の喜びの共有	17	
3	基本③：保護者の養育力の向上に資する支援 基本④：信頼関係の構築と地域資源の活用	18	
4	方法①：保護者支援の種類と内容 方法②：保護者支援の流れ（計画、実践、評価）	19	
5	方法③：保護者支援の方法と技術 方法④：関係機関等との連携や協力	20	
6	実践①：保育所に在籍する保護者への支援 実践②：地域で子育てをしている保護者への支援	21	
7	実践③：特別な対応を要する家庭への支援 実践④：施設等を利用しての保護者への支援	22	
8	まとめと評価：学びの振り返り・成果と課題の把握	23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
使用教科書			
No	教科書名	著者名	出版社名 ISBN
1	なし	-	-
2			
3			
4			
5			
使用教科書備考			
なし			
参考書			
保育所保育指針			

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12350
科目	専門教育科目	科目名	総合表現		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	山下 真由美				
必修区分	保[幼選]レ				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目(選択)				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DPI_8				

**授業目標**  
 幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された当該領域「表現」のねらいや内容を総合的に捉え保育を構想するとともに、これまでに学修した様々な表現活動を関連付けて、子どもの発達を理解した総合的な表現活動を展開する指導方法を身に付ける。また、協働学習の取組をとおして実際に総合的な表現活動を企画・実施できる力を培う。

**到達目標**  
 1. 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等を関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術について理解できる。  
 2. 幼児の発達を踏まえて総合的な表現活動を構想し、保育の総合表現活動に展開させることができる。  
 3. 協働して総合的な表現活動に取組むことにより他者の表現の受容と共感について理解を深め、保育の構成に活用することができる。  
 4. 自ら総合的な表現活動を企画・運営し、実施後における指導の改善について考察することができる。

授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)  
 2回目以降の授業では、毎回、復習に相当する課題を示す。協働学習では、グループ毎に授業時間外での打ち合わせや準備が必要となる。

標準学習時間の目安  
 次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題(試験やレポート等)のフィードバック  
 課題(試験やレポート等)提出期限後の授業でコメントを付した課題(試験やレポート等)を返却する。

評価方法  
 授業の積極性、課題、ノート・レポート提出、総合的表現活動の発表等を総合的に判断する。

その他  
 身体表現の授業においては、動きやすい服装で出席すること。

講義計画	
1	オリエンテーション(総合表現発表の説明) 主体的対話的深い学びの表現とは
2	幼児理解に基づく身体表現の基礎 ねらい・内容・全体構造の理解・リトミック理論
3	身体表現の工夫と応用 指導上の留意点、リトミック応用
4	幼児理解に基づく造形表現の基礎 ねらい・内容・全体構造の理解
5	造形表現の工夫と応用 指導上の留意点・(他表現領域との関連)
6	幼児理解に基づく音楽表現の基礎 ねらい・内容・全体構造の理解
7	音楽表現の工夫と応用 指導上の留意点・(他表現領域との関連)
8	保育における総合的表現活動の事例分析 保育実践の動向と小学校教科等のつながり
9	発達段階に応じた総合的な表現活動の取組 レクリエーション支援活動の手段の習得
10	総合的な表現活動の取組、指導案の作成と評価 教育・福祉現場のレクリエーション支援の立案
11	総合的な表現活動の取組、全体構想の理解 立案したプログラムを利用しての身体活動の実施
12	総合的な表現活動の取組、模擬保育と改善 対象者に合わせた表現の立案、保育構想の向上
13	総合的な表現活動(ダンスを含む)の実施・リハーサル
14	総合的な表現活動の発表(前半) 主体的・対話的深い学びに基づく評価と改善
15	総合的な表現活動の発表(後半) 主体的・対話的深い学びに基づく評価と改善

使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	—	—	—
2				
3				
4				
5				

使用教科書備考  
 授業において適宜資料を配布する。

参考書  
 保育所保育指針、幼稚園教育要領、「楽しみをととした心の元気づくりレクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人 日本レクリエーション協会

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	17230
科目	専門教育科目	科目名	教育課程総論		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	奥野 正義				
必修区分	保幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DP4				

授業目標	新しく改正された幼稚園教育要領や保育所保育指針にもとづき、幼稚園教育のための教育課程や保育所保育のための保育課程について、それぞれの編成方法や指導計画作成の基本的な考え方を理解することが目的である。それぞれの目的や変遷に触れながら、編成や指導計画の作成についての基本的知識を身につけるとともに、保育における計画・実践・評価・改善の過程について考える。
到達目標	1. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 2. 教育内容・保育内容の充実と質の向上に資する教育・保育の計画と評価について理解する。 3. 計画、実践、評価、改善のPDCAの過程について全体構造を理解する。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	講義で学んだ内容について毎時間振り返るとともに、教科書や参考書を活用して復習・予習を行い、理解を深める
標準学習時間の目安	1回の講義当たり、予習・復習を含めて4時間の学習が必要である
課題（試験やレポート等）のフィードバック	定期試験後に再試験対象者へのみ、課題（試験やレポート等）を返却する
評価方法	授業態度(20%)、テスト(40%)、レポート(40%)により、総合的に評価する
その他	幼稚園教育要領解説を参照すること

講義計画					
1	教育課程とは	16			
2	幼稚園教育要領と教育課程	17			
3	新保育所保育指針と保育課程	18			
4	保育の基本	19			
5	教育・保育課程の編成	20			
6	教育・保育課程と指導計画	21			
7	保育評価と質の向上	22			
8	指導計画の基礎	23			
9	3歳児未満の指導計画の考え方	24			
10	3歳児未満の指導計画の実際	25			
11	3歳以上児の指導計画の考え方	26			
12	3歳以上児の指導計画の実際	27			
13	接続期の指導計画の考え方	28			
14	接続期の指導計画の実際	29			
15	特色ある世界の保育と今後の課題	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
発行され次第、連絡します。					
参考書					
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	17261
科目	専門教育科目	科目名	教育の方法と技術		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独
教員	三橋 功一				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当する「コア・ポリシー」項目番号	DP4、5、6				

授業目標	<p>幼児教育では、「人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に関わる意欲、よりよい生活を営む態度等」を育むために、保育者が子どもの発達特性等を考慮し「教育(学び)」の計画(内容・環境・方法等)をつくり出します。この授業では、幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、研究方法、教材研究の方法、幼小の連携等について学び、豊かな保育を展開するための教育の方法と技術を学ぶことを目標とする。</p>
到達目標	<p>(1) 幼児期の「環境を通して行う教育」と適切な指導・援助方法について説明できる。  (2) 教材・教具の活用と教材研究について説明できる。  (3) 多様な保育方法・形態について説明できる。  (4) 保育を観察し、活動の特徴について説明できる。  (5) 保育における評価について説明できる。  (6) 幼小連携の必要性と取組みについて説明できる。</p>
授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習)	
授業前に、(1)資料等を読み、重要語・注目語等にマーキングします。(2)重要語・注目語等の語彙・意味を辞書、事典等で調査し、予習ノートに記述します。(3)併せて資料の主眼等を整理し概要をまとめるとともに疑問点等をもとに予習ノートを作成し、授業に持参します。授業後に、(4)授業における学びをノートにまとめます。	
標準学修時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である	
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
定期試験後に再試験対象者へのみ、課題(試験やレポート等)を返却する。	
評価方法	
「教室授業の学びと教室外の学びの学習成果」を集めた「学習ポートフォリオ(総合報告書)」を作成してもらい、評価対象とします。	
その他	
毎時間授業終了時に、学習の振り返りを記述(「せんせい、あのね!」)フアイール(A4判2穴)、A4判用紙、国語辞典、英和辞典等を持参	

講義計画				
1	オリエンテーション(授業の進め方等の共通理解)	16		
2	幼児期の子ども理解と教育方法	17		
3	教育方法の系譜	18		
4	環境を通して行う教育	19		
5	遊びの中の学びを育む	20		
6	教材・教具と教材研究	21		
7	保育方法・形態(1)ー多様な保育方法・形態	22		
8	保育方法・形態(2)ー発達の時期と保育	23		
9	保育方法・形態(3)ー実例から学ぶ	24		
10	保育の観察・記録ー子どもを見る・子どもが見える	25		
11	学びをみとるー学びの成果と評価	26		
12	視聴覚教育の系譜	27		
13	幼児教育における教育機器・教材等の活用	28		
14	幼児教育と小学校教育の連携	29		
15	まとめ(授業の振り返り等)	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
生田孝至、三橋功一、姫野完治編著『未来を拓く教師のわざ』一巻書房 鹿毛雅治、奈須正裕編著『学ぶこと・教えること：学校教育の心理学』金子書房				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	17240
科目	専門教育科目	科目名	教育相談		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数
教員	家村 昭矩/赤坂 和哉				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当ガイダンス項目番号	DP3, 4				

授業目標	<p>教育相談とはどのようなものなのかを学ぶ。教育相談の理論や方法はそれぞれ専門性が高く、保育の専門家が行う相談活動の目的やその性質を理解することが必要である。その上で、相談の中で行われる種々のカウンセリングや心理療法のなどの理論や技法の基礎を学び、保育の専門家として子どもを理解すること、子どもとの良いかかわりをするためのヒントを得る。さらに、保育者として保護者からの相談を受けること、ときの基本的な態度や方法を学び、実際にその役割をロールプレイングで試しながら学ぶ。</p>
到達目標	<p>教育相談で行われている、いくつかの方法（カウンセリング、心理療法など）の理論と技法を知り、それらから学んで、より良く子どもを理解したり、かかわったりする姿勢や技術を身につけ、保護者との話し合いや相談における基本的な態度を身につける。</p>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	<p>授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）</p>
できるだけ、乳幼児とかかわる機会を持つてください	
標準学習時間の目安	<p>予習復習を含めて2時間程度の学修が望ましい</p>
課題（試験やレポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題やレポート等の提出物については評価とコメントを付して返却する。</li> <li>・機軸的な回答例を授業時に紹介する。</li> </ul>
評価方法	<p>ノート、授業参加、レポートなどで総合的に評価します。</p>
その他	<p>※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。</p>

講義計画				
1	ガイダンス			16
2	教育相談とは	相談の目的によるさまざまな形態、方法		17
3	ガイダンスとカウンセリング			18
4	相談の専門家の行う相談活動	相談の専門家の行う相談活動と保育の専門家の行う相談活動		19
5	問題のとらえ方、人間のとらえ方、発達のとらえ方	問題のとらえ方、人間のとらえ方、発達のとらえ方による治療法、指導法の違い		20
6	発達の理論、発達の問題を子どもに理解に生かす			21
7	来談者中心療法、その他のカウンセリング			22
8	来談者中心療法、その他のカウンセリングから学ぶ			23
9	遊戯療法、遊戯療法の考え方から学ぶ			24
10	行動療法	行動療法からヒントを得る		25
11	心理劇、ロールプレイング			26
12	子どもに寄り添う			27
13	保護者に対する姿勢			28
14	子どもの「問題」のとらえ方、「発達の危機」の理解と支援			29
15	まとめ（学習の振り返りと教職履修カルテの記入）			30
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
子どもの理解と保育・教育相談 小田豊 秋田喜代美 編 (株) みらい				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	17251
科目	専門教育科目	科目名	教育経営論		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独
教員	三島 裕一				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DPI, 4				

授業目標	少子化や待機児童、家庭や地域の教育力の低下などさまざまな問題がある中で、幼稚園や保育所、認定こども園などは一層その役割を果たすことが期待されている。本科目では、幼稚園を取り巻く諸問題を理解することともに、園長や主任教諭や主任保育士などが、それに対処するための組織や経営や方法などについて学習する。
到達目標	1. 幼稚園や保育所の組織や経営、方法などの基本を学ぶ。 2. 幼稚園や保育所などを取り巻く現在の諸問題について知る。 3. 諸問題に対処する方法や改善方法について考える。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
1. 授業で配布された資料をもとに予習・復習をおこなう 2. 新聞・雑誌等における「教育関係などの記事」に関心をもつ 3. 幼稚園や保育所の行事に参加し、現場の教師の話聞く	
標準学習時間の目安	
次回の講義までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
定期試験後に再試験対象者へのみ、課題（試験やレポート等）を返却する	
評価方法	
授業態度(20%)、テスト(40%)、レポート(40%)により、総合的に評価する	
その他	
幼稚園教育要領を参照すること	

講義計画				
1	オリエンテーション	16		
2	教育経営の意義	17		
3	子どもを見る目、保育を見る目を育てる	18		
4	記録の点検と学び合い	19		
5	保育の環境づくり	20		
6	安全な環境の点検と整備	21		
7	職員間のチームワーク	22		
8	他の職員への相談援助	23		
9	職員相互のスキルアップ	24		
10	会議や研修の活性化	25		
11	保護者との連携	26		
12	保護者からの相談対応	27		
13	地域との連携	28		
14	小学校との連携	29		
15	教育経営の今後の課題	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリ	17270
科目	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習事前指導		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数
教員	三橋 功一/三島 裕一/木村 美佐子				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当の「コア・ポリシー」項目番号	DPI-1, 2, 3, 4, 5, 7, 8				

**授業目標**  
 教育実習をより充実した学びの多いものにするためには、事前指導が必要である。教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶ。また、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定できることをねらいとする。

**到達目標**

- ・教育実習の意義、目的を理解し、自己課題を明確にできる。
- ・ねらいを明確にした指導案を書くことができる。
- ・幼児の姿、保育者の意図を理解した実習日誌の記録方法を説明できる。
- ・教育実習に向け、意欲を持って準備に取り組むことができる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

- ・幼児の発達段階を理解し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。
- ・幼稚園で広く歌われている曲の伴奏ができるようピアノを練習しておくこと。

標準学修時間の目安

- ・1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

- ・課題提出期限後の授業で個別指導を行い、コメントを付した課題を返却する。

評価方法

- ・提出課題（80%）
- ・受講態度（20%）

その他

- ・本科目履修生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事後指導」を同時に履修すること。
- ・毎回実習ファイルを持参すること。やむを得ず欠席した場合は必ず資料を担当教員に取りに行くこと。
- \*本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。

講義計画

1	オリエンテーション	16
2	教育実習の意義と目的、幼稚園教育の理解	17
3	実習の心構え	18
4	実習関係書類の作成	19
5	実習記録の書き方①（観察する視点の理解）	20
6	幼稚園観察学習①（幼児の活動）	21
7	幼稚園観察学習②（環境構成・保育者の活動）	22
8	研究保育について①（保育のねらいの理解）	23
9	研究保育について②（保育内容の理解）	24
10	実習記録の書き方②（個別指導）	25
11	指導案の書き方①（記載方法の理解）	26
12	指導案の書き方②（個別指導）	27
13	個別指導（実習目標の確認等）	28
14	自己課題の明確化	29
15	実習直前ガイダンス、指導担当教員との打ち合わせ	30

使用教科書

No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				

使用教科書備考

なし

参考書

幼稚園教育要領

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	17373
科目	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習事後指導		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数
教員	三橋 功一/三島 裕一/木村 美佐子				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当科目コード	DPI_2, 3, 4, 5, 7, 8				
授業目標	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習で体験し学んだことを総括し、今後の学習課題を明確にすることをねらいとする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習を振り返り、学んだ成果と課題を確認できる</li> <li>・実習報告会を通して学びを共有し、幼稚園教諭としての課題を理解する</li> <li>・自らの教育実践を省察し、指導案を修正することができる</li> </ul>				
授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習報告会の資料作成、研究保育指導案の修正</li> </ul>				
標準学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。</li> </ul>				
課題（試験やレポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題（指導案等）提出期限後の授業で、コメントを付した課題を返却する。</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習報告会での発表内容、提出課題、グループワークへの参加態度等を総合的に評価する。</li> </ul>				
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習ファイルを毎回持参すること</li> <li>・本科目履修生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事前指導」を同時に履修すること。</li> <li>・1～7回は30分、8回目は45分授業とする。</li> </ul>				

講義計画					
1	オリエンテーション 教職履修カルテの記入	16			
2	実習報告会1 発表：Aグループ、記録・質問：Bグループ	17			
3	実習報告会2 発表：Bグループ、記録・質問：Aグループ	18			
4	教育実習の成果と課題 教育実習の自己評価	19			
5	研究保育を振り返って 指導案の再作成	20			
6	グループワーク 研究保育の改善点	21			
7	教育実習評価の理解 個別指導	22			
8	まとめ 自己課題の明確化	23			
9		24			
10		25			
11		26			
12		27			
13		28			
14		29			
15		30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
幼稚園教育要領					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	17372
科目	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	実験・実習	単位数	4	担当形態	複数
教員	三橋 功一／三島 裕一／木村 美佐子				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/リ/シ/項目番号	DPI_1,2,3,4,5,7,8				

授業目標	<p>教育実習は、本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けることをねらいとする。本学では実習期間を3週間と設定し、見学・観察実習、参加実習、責任実習（研究保育等）を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の社会的意義と幼稚園教諭の職務を理解し説明できる。</li> <li>・幼児、保育者とコミュニケーションをとりながら、主体的に実習に取り組むことができる。</li> <li>・課題を明確にして実習内容を記録し、次の保育に生かすことができる。</li> <li>・幼児の実態を理解し、適切な保育計画を立案・実施することができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	<p>授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌の記録、指導案作成等は、目的意識を持ち、資料を参考にしながら取り組むこと。</li> <li>・幼児の発達段階を復習し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。</li> </ul>
標準学修時間の目安	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の実習日誌の記録に1～2時間程度の学修が必要である。</li> </ul>
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習幼稚園からの評価を開示する。</li> </ul>
評価方法	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習幼稚園における実習評価</li> <li>・実習記録</li> <li>・保育計画</li> </ul> <p>以上を総合的に評価する。</p>
その他	
受講条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次開講の卒業必修科目、幼稚園教諭免許必修科目・選択必修科目を単位取得済みであること。</li> <li>・但し、特段の理由がある場合は、保育学科教務委員会の審査を経て特別に履修を許可することがある。</li> </ul>

講義計画				
1	幼稚園教育実習では、15日間で以下の内容を学ぶ 観察実習における視点の理解	16		
2	一日の保育の流れの理解	17		
3	保育内容の理解	18		
4	幼稚園教諭の職務の理解	19		
5	実習日誌の適切な記録	20		
6	参加実習の基本的な理解	21		
7	幼児理解	22		
8	幼稚園の社会的意義の理解	23		
9	園の教育目標の理解	24		
10	指導技術の習得	25		
11	責任実習に向けての準備とまとめ	26		
12	幼稚園教諭に求められる資質の理解	27		
13	指導案の作成・教材研究	28		
14	指導案に基づいた保育の実践（研究保育）	29		
15	教育観の確立	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
幼稚園教育要領				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12380
科目	専門教育科目	科目名	幼児理解		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	木村 美佐子				
必修区分	幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DPI, 4				

授業目標	<p>幼児期にふさわしい教育を行うために、保育者は一人一人の幼児に対する理解を深めることが求められる。本授業では、保育における幼児理解の重要性と幼児理解の方法を具体的に学び、観察及び資料等の具体的な事例を通して適切な援助の在り方についてグループワークにより分析・考察し、実践力を養う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における幼児理解の重要性を説明できる。</li> <li>・幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を説明できる。</li> <li>・幼児の姿から学びやつまりきを理解し、適切に記録して分析することができる。</li> <li>・幼児理解に基づいた適切な援助の在り方を考えることができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で出会った子どもたちの様々なエピソードを記録しておくこと。</li> <li>・授業の到達目標を確認し、その日の授業内容をプリントやノートにまとめておくこと。</li> </ul>
標準学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。</li> </ul>
課題（試験やレポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出期限後の授業で概範的な課題を紹介する。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート (80%)</li> <li>・授業態度 (20%)</li> <li>以上を総合的に評価する。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外での観察学習のため、講義内容の順番が変更することがある。</li> <li>*本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。</li> </ul>

講義計画					
1	オリエンテーション	保育における幼児理解の重要性	16		
2	幼児理解の基本		17		
3	幼児理解と評価の考え方		18		
4	適切な幼児理解		19		
5	幼児理解のための観察法の理解		20		
6	保育における観察の視点①（観察学習・幼児の言動）		21		
7	保育における観察の視点②（観察学習・他者との関わり）		22		
8	保育における観察の視点③（観察学習・環境との関わり）		23		
9	保育における観察の視点④（観察学習・幼児の心理）		24		
10	幼児理解のための視点の整理①（事例検討）		25		
11	幼児理解のための視点の整理②（グループワーク）		26		
12	幼児理解と援助①（3歳児の事例から学ぶ）		27		
13	幼児理解と援助②（4、5歳児の事例から学ぶ）		28		
14	幼児理解と援助③（保護者との関わり）		29		
15	まとめ 教職カルテ・授業アンケート		30		
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
幼稚園教育要領 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	11310
科目	専門教育科目	科目名	音楽応用		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独
教員	高実希子				
必修区分	[保選] [幼選]				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目(選択)				
該当ガイダンス項目番号	DP1				

授業目標	<p>本授業では、音楽Ⅰ・Ⅱで培った基本的な知識や技術を基に、専攻実技とアンサンブルの学習を行う。各自専攻する楽器等(声楽を含む)を選択し、演奏技術や表現力の向上を目指す。また、親子を対象とした表現プログラムを作成し、演奏会を実施する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専攻実技の演奏技法を学び、課題曲を最後まで演奏することができる。</li> <li>・アンサンブルを学び、互いの表現を分かち合いながら演奏することができる。</li> <li>・身につけた演奏技術を活かして、演奏会で発表することができる。</li> <li>・これまで培った知識を基に、親子を対象とした表現プログラムを作成することができる。</li> <li>・プログラムに沿って演奏したり表現したりすることができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	<p>実技を中心とした授業のため、授業時間外の練習が不可欠である。レッスンの時間を十分に活用できるように、日々練習に励むこと。</p>
標準学修時間の目安	
I回の講義につき予習・復習を含めて2時間以上の学修が必要である。	
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
課題に対しては、個人またはグループレッスン内での都度フィードバックする。	
評価方法	
授業への取り組み、演奏会の立案と演奏によって評価する。	
その他	
※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教科に関する科目」である。	

講義計画				
1	ガイダンス 専攻実技と課題曲の選択	16		
2	実技レッスン① 作曲家についての理解	17		
3	実技レッスン② 作品の時代背景	18		
4	実技レッスン③ 的確な楽譜の読み取り	19		
5	実技レッスン④ 内容理解	20		
6	実技レッスン⑤ 演奏解釈	21		
7	実技レッスン⑥ 演奏表現	22		
8	親子を対象とした表現プログラムの作成	23		
9	演奏会に向けた個人・グループレッスン① プログラムの役割分担	24		
10	演奏会に向けた個人・グループレッスン② 作品の理解	25		
11	演奏会に向けた個人・グループレッスン③ アンサンブルの留意点	26		
12	演奏会に向けた個人・グループレッスン④ 聴衆に伝わる演奏会の構築	27		
13	演奏会に向けた個人・グループレッスン⑤ リハーサル	28		
14	グループ発表会	29		
15	演奏会	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
なし				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	16220
科目	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅱ		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数
教員	榊ひとみ/赤坂和哉				
必修区分	[保実習選]				
教育職員免許法に基づく分類					
該当科目コード	DPI-2,3,4,5,7,9				

授業目標	この授業では、保育実習Ⅰを振り返り、実習における自己の課題を明らかにし、主体的に実習に取り組めるよう指導します。保育実習Ⅱでは、研究保育を行うため、指導計画の立案・実践・省察・省察と一連の保育の実践を体験的に学ぶ機会となります。事前指導では保育実習Ⅱでの学びが効果的なものになるよう具体的に指導します。事後指導では、実習を通して獲得された学びの内容を検討し、今後、保育者としての実践していく上での課題を明確にしていきます。
到達目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解することができる。 2. 実習や観察の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を培うことができる。 3. 保育の観察、記録、自己評価に基づき、改善のための実践や事例から議論することができる。 4. 保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。 5. 実習の事後指導を通して実習総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にすることができる。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
初回の授業前にシラバスをよく読んでおくこと。毎授業時に提示する課題を次の授業の前までに完了させること。	
標準学修時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。	
評価方法	
授業への参加態度・意欲、課題の提出状況、実習報告書、実習報告会での発表から、総合的に評価する。	
その他	
この授業は、保育実習Ⅱを選択する学生が同時に履修するものである。 毎時、実習ファイルを持参すること。	

講義計画					
1	保育実習Ⅱの目的・ねらい、理解と保育実習Ⅰのふり返りから見える自己の課題	16			
2	子どもの最善の利益を考慮した保育と保護者に寄り添う支援のあり方	17			
3	保育者の専門性と役割、守秘義務遵守と保育士の職業倫理	18			
4	一人ひとりの子どもの状態や発達段階に寄り添う適切な関わり	19			
5	保育の表現技術を生かした保育実践の具体例	20			
6	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	21			
7	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善～実習日誌の意義	22			
8	教材研究の実際（グループワーク）	23			
9	教材の改善（グループワーク）	24			
10	指導計画の立案の実際（グループワーク）	25			
11	指導計画の改善（グループワーク）	26			
12	実習の総括と自己評価による課題の明確化（実習報告会）	27			
13	自己の保育実践をふり返る（グループワーク）	28			
14	保育実践の質を高めるために	29			
15	保育者としての自己成長と保育実習Ⅱ（まとめ）	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
保育所保育指針					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	16230
科目	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅲ		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数
教員	松田 賢一/家村 昭矩				
必修区分	[保実習選]				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ロ/ハ/ニ/ホ/リ/シ/項目番号	DP1、2、3、4、5、7、9				

授業目標	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深め、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にすることを目標とする。
到達目標	1 実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確にすることができ。 2 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、実習に臨むことができる。 3 実習を振り返り、今後の学習における自己課題を明確にすることができる。
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	・ 児童家庭福祉、社会的養護等の関連科目のテキスト、講義内容を再度確認して、理解を深めること。 ・ 社会福祉施設の概要を文獻、インターネット等で調べておくこと。 ・ 実習施設、関連施設等からの行事等のボランティアの依頼があった場合は、可能な限り参加して施設理解に努めること。
標準学修時間の目安	・ 次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。
課題(試験やレポート等)のフィードバック	・ 課題の提出後、確認し返却する。
評価方法	・ 課題の提出状況、授業への参加態度・意欲・実習報告会等を総合的に評価する。 なお、課題の評価基準、報告会の評価基準は別途示す。
その他	なし

講義計画					
1	保育実習(施設)による総合的な学び	16			
2	利用者の権利を考慮した養護、支援の具体的理解	17			
3	利用者支援と地域生活支援	18			
4	実践力の育成	19			
5	利用者の状態に応じた適切なかわり	20			
6	ソーシャルワークの機能を活かした支援の実践	21			
7	計画と観察、記録、自己評価	22			
8	実習の全体計画に基づく具体的な計画と実践	23			
9	実習における観察、記録、自己評価に基づく支援の改善	24			
10	保育士の専門性と職業倫理	25			
11	全国保育士倫理綱領	26			
12	事後指導における実習の総括と評価	27			
13	実習の総括と自己評価	28			
14	実習報告会	29			
15	課題の明確化	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
保育実習ガイドライン(施設実習編)第3版 全国保育士養成協議会 北海道ブロック協議会編					



年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	16320
科目	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅱ		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	複数
教員	榊 ひとみ/赤坂 和哉				
必修区分	[保実習選]				
教育職員免許法に基づく分類					
該当科目コード	DPI-2,3,4,5,7,8				

授業目標

1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。  
 2. 地域の特性を把握し、保育に反映させ、地域社会に貢献できる。  
 3. 保育士としての高い職業倫理を持ち、保育者の社会的使命を理解することができる。  
 4. これまで身につけてきた知識と技術を用いて、研究保育を行うことができる。  
 5. 実習保育所の保育士等と協働し、課題解決に取り組むことができる。

到達目標

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めることができる。  
 2. 子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深めることができる。  
 3. 既習教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもへの保護者支援について総合的に理解できる。  
 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深められる。  
 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。  
 6. 保育士としての自己の課題を明確にすることができる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

実習日誌に必要な事項を毎日、記入し、保育所に提出すること。

1日の実習日誌の作成に1～2時間程度の学修が必要となる。

標準学修時間の目安

課題（試験やレポート等）のフィードバック

最終日の実習日誌記入後、保育所に実習日誌を提出する。保育所からは検印とコメントの記入後、日誌の返却がある。

評価方法

実習保育所での評価と本学における評価を総合する。※評価が「60点」に達しない場合は、学科会議の議を経て課題レポートや再実習を実施することができる。その他の理由は、学科会議で審議する。

その他

保育実習Ⅱを履修する学生は、保育実習指導Ⅱを同時に履修すること。1年次開講の卒業必修科目、保育士必修科目を単位修得済みであること。また選択必修科目についても、1年次で履修すべき単位を修得済みであること。特段の理由がある場合は、保育学科教務委員会審査を経て特別に履修を許可することができる。

講義計画		
1	保育所の役割や機能の具体的展開の理解 ～養護と教育が一体となって行われている保育	16
2	保育所の役割や機能の具体的展開の理解 ～保育所の社会的役割と責任	17
3	観察に基づく保育理解 ～子どもの心身の状態や活動の観察	18
4	観察に基づく保育理解 ～保育士等の動きや実践の観察	19
5	観察に基づく保育理解 ～保育所の生活の流れや展開の把握	20
6	環境を通して行う保育、 生活や遊びを通して総合的に 行う保育の理解	21
7	入所している子どもへの保護者支援 及び地域の子育て支援への理解	22
8	保育所と地域社会との連携の 具体的理解	23
9	保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評 価と保育の過程の理解	24
10	作成した指導計画に基づく保育実践と 評価の実際	25
11	多様な保育の展開と保育士の 業務の理解	26
12	多様な保育の展開と保育士の 職業倫理の理解	27
13	保育士間の連携とカンファレンスの 意義の理解	28
14	実習日誌への記録を通じた 保育実践の質的向上の理解	29
15	保育士としての自己の課題の 明確化	30

使用教科書			
No	教科書名	著者名	ISBN
1	なし	-	-
2			
3			
4			
5			

使用教科書備考

なし

参考書

保育所保育指針

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	16330
科目	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅲ		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	複数
教員	松田 賢一/家村 昭矩				
必修区分	[保実習選]				
教育職員免許法に基づく分類					
該当科目コード・科目番号	DPI-2, 3, 4, 5, 7, 8				

授業目標	<p>保育実習Ⅰ(保育所)での体験に基づき、児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設の養護を實踐し、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うとともに、利用者に対する理解を深くし、理論と実践の関係について習熟させることをねらいとする。児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設において、10日間、見学・観察実習、参加実習、責任実習を行う。また、実習日誌を毎日記入する。</p>
到達目標	<p>1 児童福祉施設(保育所以外)において、概ね10日間の実習を行う。  2 日誌を毎日記入し、提出する。  3 責任実習がある場合には、指導分を立案し実施する。  4 実習を通して評価を基に、自己の実習を振り返り、課題を明確にする。</p>
授業外に行うべき学習(予習・復習、準備学習)	<p>・保育実習ガイドライン(第3版)を事前に読み、内容の詳細を理解し実習に臨むこと。  ・実習生としての立場をわきままえ、実習生として相応しい礼節を見につけておくこと。  ・日誌に用いる簿字の誤記には日頃から注意を払い、必要に応じて文章力を向上させるトレーニングを各自行うことが望ましい。</p>
標準学修時間の目安	<p>・1回の報告書(レポート)作成に2～4時間程度の学修が必要となる。</p>
課題(試験やレポート等)のフィードバック	<p>・実習日誌は実習終了後提出し、確認後返却される。(別途伝える)  ・実習報告書は、指定された日まで提出のこと。</p>
評価方法	<p>・実習施設での評価と本学における評価を総合する。  ・評価点が60点に満たない場合は、再実習を行う場合がある。また、再実習費用は自己負担であり、再実習に向けての再実習教育を行うものとする。</p>
その他	<p>・1年次開講の卒業必修科目、保育士必修科目を単位習得済みであること。また、これらの選択必修科目についても1年次で履修すべき単位を修得済みであること。ただし、特段の理由がある場合については、保育学科教務委員会の審議を経て特別に履修を許可することがある。(科目等履修生など)</p>

講義計画				
1	現場実習ガイドンス	16		
2	児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能の理解	17		
3	受容し共感する態度を養う	18		
4	個人差や生活環境に伴うニーズ把握	19		
5	個別支援計画の作成と実践を学ぶ	20		
6	子どもの家族への支援と対応について学ぶ	21		
7	多様な専門職との連携について学ぶ	22		
8	地域社会との連携について学ぶ	23		
9	保育士の多様な業務の理解	24		
10	保育士の職業倫理についての理解	25		
11	保育士としての自己課題の明確化	26		
12	施設実習終了後の整理	27		
13	実習先でのカンファレンス	28		
14	カンファレンスを受けて個別相談	29		
15	実習報告	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
保育実習ガイドライン(施設実習編)第3版 全国保育士養成協議会 北海道ブロック協議会編				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	12490
科目	専門教育科目	科目名	保育実践演習		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数
教員	松田 賢一/三橋 功一/榎 ひとみ/木村 美佐子				
必修区分	卒保幼				
教育職員免許法に基づく分類	教職に関する科目				
該当資格	DPI-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9				

**授業目標**  
 この授業では、これまでの学修の集大成として既習科目を複合させ、保育者として必要な資質能力について確実に身に付けられるとともに、その資質能力の全体像を確認することを目指す。具体的な内容として、保育上・幼稚園教諭としての責任感、使命感の再確認、②保育者に必要な社会性、対人関係能力の向上、③子どもも理解、学級経営に関する理解、④保育内容の指導力のさらなる向上をめざす。

**到達目標**  
 ・保育・教職に関する科目横断的な学習能力を習得することができる。  
 ・保育に関する現代的課題について、現状分析、考察、検討方法等について学びを深めることができる。  
 ・これまでの学習を踏まえて、保育上・幼稚園教諭としての責任感、使命感の再確認、②保育者に必要な社会性、対人関係能力の向上、保育者としての自己課題を明確にすることができる。

**授業外に行うべき学習（予習・復習・準備学習）**  
 事前学習：これまでに学んできた保育・教職に関する各々の科目がどのようなつながるのか、授業と保育実習・教育実習を振り返り、この授業で習得すべき資質能力、知識・技術は何かを把握しておくこと。事後学習：指導案立案、レポート作成等は授業では時間的に不足するため、授業の空き時間、放課後を利用してグループで協議し早めに取り組みること。

**標準学修時間の目安**  
 今回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

**課題（試験やレポート等）のフィードバック**  
 課題（指導案やレポート等）提出期限後の授業でコメントを付した課題を返却する。

**評価方法**  
 ・レポート課題（30%）、指導案の作成（30%）、グループ発表（20%）、授業態度、グループ討議における積極性（20%）

その他  
 ※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」、保育士資格必修科目、本学における卒業必修科目である。

講義計画				
1	保育・教育に関する科目横断的な学習能力の習得を 目指して：これまでの学修を振り返ることの意義			
2	保育士・幼稚園教諭の意義と役割；使命感、責任感 ～教育的愛情を中心に（後半：グループ討論）			
3	保育士・幼稚園教諭に求められる社会性と対人関係 能力（後半：グループ討論）			
4	幼原理解に基づく学級経営の実践（後半：グループ 討論）～「幼原理解」での学びを振り返って～			
5	保育や子育てに対する支援の展開 ～少子化への対応、長時間保育と子どもの発達～			
6	保育の現代的課題の問題発見① 虐待問題：函館児童相談所職員による問題提起			
7	場面別グループ学習①：指導案づくり ～実習指導を振り返って～			
8	保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討① 虐待問題と世代間連鎖：問題解決のための対応			
9	保育の現代的課題の問題発見② 小学校との連携：函館市教育委員会の講話			
10	場面別グループ学習②指導案の再検討 ～実習指導を振り返って～			
11	保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討②小 一プロブレムをおこなう背景と問題解決のための対応			
12	模擬保育ロールプレイング①親子遊足場面（保育 内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議）			
13	模擬保育ロールプレイング②避難訓練場面（保育 内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議）			
14	模擬保育ロールプレイング③運動会練習場面（保 育内容の指導力の向上グループ討議）			
15	資質能力の確認と自己課題の明確化；学びの振り返 り、教職カルテ、必要な知識技能修得の確認			
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
なし				
参考書				
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	18110
科目	専門教育科目	科目名	レクリエーション指導法		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	松本 伸吾				
必修区分	レ				
教育職員免許法に基づく分類					
該当イ/ア/ロ/ホ/リ/シ/項目番号	DP5, 8				

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーションにおける、基本的な支援の基礎を理解する。</li> <li>コミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付ける。</li> <li>日本レクリエーション協会公認指導者のレクリエーション・インストラクター資格取得に必要な基礎理論を身に付ける。</li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な基礎理論を理解することができる。</li> <li>ホスピタリティ、アイスクラス等の技法を活かすことができる。</li> <li>レクリエーション活動の楽しさや有用性を理解し、活動を活かすことができる。</li> </ol>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業にて配布される資料を熟読すると共に、予習復習をして基礎となる理論をしっかりと身に付けること。</li> <li>授業の他にも地域社会における様々なレクリエーション活動に目を向け、レクリエーション活動への理解を深めることやレクリエーション活動を体験することが望ましい。</li> </ul>
標準学修時間の目安	1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
課題ごとにレポートを提出し、講義内容の理解に努める。	
評価方法	
課題レポート、受講姿勢、出席日数等により評価をする。	
その他	レクリエーション・インストラクター養成教則本に基づき、講義のつと必要に応じてプリント資料を配布する。

講義計画				
1	オリエンテーション、レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの2つの役割	16		
2	楽しさをおとした心の元気づくりと対象者の心の元気づき	17		
3	元気づきと地域の元気づき	18		
4	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論	19		
5	良好な集団作りの理論	20		
6	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論	21		
7	リスク・マネジメントの方法	22		
8	レクリエーション活動の安全講堂と留意点	23		
9	個々人のアセスメントに基づいたプログラム	24		
10	市民を対象とした事業の作り方とイベントの応用	25		
11	プログラムの立案	26		
12	レクリエーション支援のプログラムの立案方法	27		
13	レクリエーション支援のプログラムの立案	28		
14	対象に合わせたレク・ワークの基本技術	29		
15	対象に合わせたレク・ワークの段階的アレンジ技術、まとめ	30		
使用教科書				
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	日本レク協会教本	日本レクリエーション協会	-	978-4-931180-95-6
2				
3				
4				
5				
使用教科書備考				
楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法				
参考書				
なし				

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	18210
科目	専門教育科目	科目名	レクリエーション現場実習		
配当年次	2年	期間	その他		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	複数
教員	松田 賢一/山下 真由美				
必修区分	レ				
教育職員免許法に基づく分類					
該当ガイダンス項目番号	DP5,8				

授業目標	レクリエーションインストラクター資格取得の為の必修科目である。レクリエーション活動が実際に行われている現場において、実際に指導する上で必要となる様々な技術や配慮事項、運営方法を総合的に学習する。具体的には、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し、参加した事業について参加者、スタッフ、運営責任者それぞれからの立場から分析し、より良い事業にするためのアイデアを生み出すことができるようを目指す。
到達目標	1. 健康づくり、介護予防に関わる事業を説明できる。 2. 社会参加を促進する事業を説明できる。 3. 青少年の健全育成、子育て支援に関わる事業を説明できる。 4. 地域づくり、コミュニティづくりに関わる事業を説明できる。 5. 生涯学習、生涯スポーツの振興に関わる事業を説明できる。 6. 地域文化、生涯スポーツの振興に関わる事業を説明できる。
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	
予習：レクリエーションインストラクター取得関連科目で学んだ内容が当実習で必要となる。 復習：実際に現場に出て実習を行ってきた後、振り返りの時間として自己の行動等の改善点・反省点を随時まとめること。	
標準学習時間の目安	
1回の報告書（レポート）作成に1～2時間程度の学修が必要になる。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
模範的なレポートを研究室にて開示する。	
評価方法	
指定されたレクリエーション関連事業および関連大会に、必ず出席し、そのレポートを提出することが評価の対象となる。	
その他	
なし	

講義計画					
1	ガイダンス、現場実習の注意点	16			
2	レクリエーション現場実習について	17			
3	事業参加の目的と実施形態	18			
4	現場実習参加への用意・準備	19			
5	行事運営の流れ	20			
6	コミュニケーション・ワーク	21			
7	ホスピタリティー・トレーニングの実践	22			
8	レクリエーション支援のプログラム立案	23			
9	レクリエーション支援のプログラムの評価	24			
10	レクリエーション支援のプログラムの改善法	25			
11	行事企画のプロセスとポイント	26			
12	対象者の把握（アセスメント）	27			
13	事業評価について レクリエーション支援の実施	28			
14	事業の実施について	29			
15	同協会加盟団体が主催する事業に参加	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
なし					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	11210
科目	専門教育科目	科目名	音楽II		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数
教員	山下 真由美/高橋 セリカ/伊藤 亜希子				
必修区分	[選択][幼選]				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目(選択)				
該当資格(ラ・ポ・リソ)項目番号	DP1				

授業目標	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」の内容を踏まえ、幼児教育において必要とされる音楽基礎力・音楽表現力の向上を目指す。具体的には、音楽基礎力からの「保育・幼児教育の現場で必要とされる「弾き歌い」の力、また「保育・幼稚園実習先からの「課題曲」」「弾き歌い曲」」「ピアノ伴奏」等の課題曲を分析し、主体的に取り組むことができることを培う。さらに、発表会等の表現活動の企画・実施の取組を通して保育構想に展開する力を養う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾き歌い・歌唱・器楽（ピアノ）の基礎的実技力を身に付け、保育・幼児教育の音楽表現活動にいかすことができる。</li> <li>・C-durの主要三和音を用いて、鍵盤楽器による簡易伴奏を行うことができる（弾き歌い）。</li> <li>・実習先の課題曲（弾き歌い、ピアノ伴奏等）に取り組み、自ら伴奏可能な楽譜にアレンジすることができる。</li> <li>・発表会等による保育を構想し、音楽表現技術を工夫して活用できる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）	授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）
ピアノ演奏・歌唱・弾き歌いの技術の修得には十分な練習が必要である。ピアノ個人練習室や自宅のピアノで毎日練習する習慣を身に付け、自己目標をもって取り組むこと。	
標準学習時間の目安	
I回の講義あたり予習・復習を含めて4時間以上の学習が必要である。	
課題（試験やレポート等）のフィードバック	
再試験該当者のみ、実技に関する助言を行う。	
評価方法	
実技（ピアノ、歌唱、弾き歌い）、課題、実践発表等を総合的に評価する。	
その他	
保育・幼児教育必要とされる領域「表現」の内容を踏まえ、音楽の基礎技術の向上、弾き歌いの力、実習先からの課題曲の分析（練習方法の考察と実践）等、実践的力を身に付ける。	
指導は、一斉指導及びグループ指導による指導を行う。	

講義計画					
1	オリエンテーション、(授業のねらい、到達目標)発声法の基礎、歌唱、読譜	16			
2	実技(歌唱、弾き歌い、ピアノ)幼児教育における音楽:主要三和音①	17			
3	実技(歌唱、弾き歌い、ピアノ)幼児教育における音楽:主要三和音②・活用	18			
4	実技(歌唱、弾き歌い、ピアノ)幼児教育における音楽:主要三和音展開形①	19			
5	実技(歌唱、弾き歌い、ピアノ)幼児教育における音楽:主要三和音展開形②・活用	20			
6	実技(歌唱、弾き歌い、ピアノ)幼児教育における音楽:展開形①	21			
7	実技(歌唱、弾き歌い、ピアノ)幼児教育における音楽:展開形②・活用	22			
8	実技(歌唱、弾き歌い、ピアノ)指導上の留意点・情報機器の活用の工夫	23			
9	楽曲分析① 基礎理論(保育・幼児教育活動に必要な保育課題曲の分析)	24			
10	楽曲分析② 応用理論(保育・幼児教育活動に必要な保育課題曲の分析)	25			
11	音楽による協働的取組とは:保育構想子どもよる主体的・対話的な深い学びを目指す活動	26			
12	保育構想に基づく発表会の練習①(考察)	27			
13	保育構想に基づく発表会の練習②(改善)	28			
14	保育構想に基づく発表会①(前半グループ)(まとめ・考察・改善)	29			
15	保育構想に基づく発表会②(後半グループ)(まとめ・考察・改善)	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	幼児の音楽教育	音楽教育研究協会編	音楽教育研究協会	987-4-87136-716-5	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
「幼児教育・保育士養成のための新編幼児の音楽教育―音楽的表現の指導―」 音楽教育研究協会編					
参考書					
授業において適宜資料を紹介・配布する。					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	11220
科目	専門教育科目	科目名	図画工作Ⅱ		
配当年次	2年	期間	後期		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独
教員	木村 美佐子				
必修区分	[選択] [初選] [レ]				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目(選択)				
該当ガイダンス・ポリシー項目番号	DPI_8				

授業目標	幼児の造形活動は、健やかな成長に欠かすことのできない重要な活動である。これらの活動は、本来自主的・主体的な活動であり、豊かな環境が大きく作用する。本演習では、幼児が扱う多様な素材・用具に触れ、その特性と使い方を理解し、適切な環境構成と援助ができることをねらいとする。また、幼児の発達に応じた教材を研究し、協同して制作することを旨とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の造形活動を促す適切な環境を構成できる</li> <li>・保育で用いられる様々な素材に触れ、特性と使い方を説明できる</li> <li>・様々な技法を理解し、使用する用具の使用方法、活動内容を説明できる</li> <li>・様々な素材を活用し、幼児に適した教材を作ることができる</li> <li>・豊かな造形活動を展開するための、援助方法を説明できる</li> <li>・グループのメンバーと協力して制作できる</li> </ul>
授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習)	授業外での活動が不可欠である。計画的、主体的に活動すること
課題制作は、授業外での活動が不可欠である。計画的、主体的に活動すること	
標準学修時間の目安	I回の講義にあたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい
課題(試験やレポート等)のフィードバック	
課題(作品やレポート等)提出期限後の授業でコメントを付した課題を返却する。	
評価方法	
提出課題(60%) 発表内容(20%) 授業への積極性(20%)	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は使用せず、随時プリントを配布する</li> <li>・受講生の人数により、講義内容を変更することがある</li> </ul>

講義計画					
1	幼児の造形活動の理解 保育者の工作活動	16			
2	保育に活かす技法遊び①(トイレットペーパーを使って)	17			
3	保育に活かす技法遊び②(小麦粉を使って)	18			
4	保育教材の理解と研究①担当グループ決め・子供向け教材作成(廃材、折紙、粘土の活用)	19			
5	保育教材の理解と研究② Aグループ:発表担当、B,Cグループ:製作	20			
6	保育教材の理解と研究③ Bグループ:発表担当、A,Cグループ:製作	21			
7	保育教材の理解と研究④ Cグループ:発表担当、A,Bグループ:製作	22			
8	基本的な素材・用具の特性と使い方の理解①(廃材)	23			
9	基本的な素材・用具の特性と使い方の理解②(紙)	24			
10	基本的な素材・用具の特性と使い方の理解③(粘土)	25			
11	保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材①(題材、担当決定)	26			
12	保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材②(仕掛け調整)	27			
13	保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材③(制作)	28			
14	保育教材の理解と研究Ⅱ 乳幼児向けの保育教材④(丁合・製本)	29			
15	まとめ(作品鑑賞会・授業アンケート)	30			
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
なし					
参考書					
なし					

年度	2018	学科	保育学科	ナンバリング	10077
科目	専門教育科目	科目名	国語		
配当年次	2年	期間	前期		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独
教員	三島 裕一				
必修区分	[保選] [幼選]				
教育職員免許法に基づく分類	教科に関する科目(選択)				
該当イブイ項目番号	DP5_6				

授業目標	<p>本授業は、幼児教育に携わる職業人として必要な日本語の確かな理解力と表現力の育成を目標とする。とりわけ、読みや書くのふまえながら、日本語の特質について理解を深める。その中で、教え方やおとぎ話など幼児期に親しんだ文語を解釈し、現代口語への変遷の過程をなごりながら、現代日本語の現況と課題について認識を深め、読み聞かせや通信等で正しく日本語を使える人材を育成する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育について日本語を大切にしていこうとする意識をもつことができる。</li> <li>・幼児教育における言葉の特質を理解して、日本語の大切さを理解し、実践的に使える技能を養う。</li> <li>・読解演習の散文・韻文・文語体文章の読解を通して日本語の調べの楽しさを知ることができ、対象となる読み手に向けて、段落構成のしつかりとした理解しやすいつい説得力のある文章を書くことができる。</li> </ul>
授業外に行うべき学習(予習・復習・準備学習)	<p>①日刊新聞の時事コラムを1日1回読み通す(購読していない場合は大学図書館にある)。低い声でもよいから一編を音読</p> <p>②上記の時事コラムを音読する。要約し、自分の思いをノートに記す。</p> <p>③漢字検定4級練習問題に取り組む。</p>
標準学修時間の目安	
評価方法	<p>音読すべきコラム記事を準備する時間も含めて、1回15分間、1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望まれる。</p> <p>課題(試験やレポート等)のフィードバック</p> <p>毎回行う自己評価を紹介し、次の授業に生かすこと。</p>
その他	<p>毎回の授業での関心・意欲・態度そして各作業、提出する作文、小論文によって評価を行う。</p>
※本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教科に関する科目」である。	

講義計画					
1	オリエンテーション	言語の特質	16		
2	幼児教育と国語	(講義) 幼児教育と日本語について	17		
3	幼児教育と国語	(講義と演習) 日本語の歴史	18		
4	幼児教育と国語	(講義と演習) 幼児教育の漢字と仮名	19		
5	幼児教育と国語	(講義と演習) 日本の祭事と幼児教育	20		
6	幼児教育と国語	(講義と演習) 読解演習(韻文)	21		
7	幼児教育と国語	(講義と演習) 読解演習(散文)	22		
8	幼児教育と国語	(講義と演習) 絵本ブックトーク	23		
9	現代日本語を学ぶ	(講義と演習) 書くことの意味	24		
10	現代日本語を学ぶ	(講義と演習) 卓上四季と段落構成	25		
11	現代日本語を学ぶ	(講義と演習) 自己PR文の書き方	26		
12	現代日本語を学ぶ	(講義と演習) 小論文の書き方	27		
13	現代日本語を学ぶ	(講義と演習) 諸通信の構成	28		
14	現代日本語を学ぶ	(講義と演習) たよりの作成	29		
15	総括と授業をふりかえっての評価		30		
使用教科書					
No	教科書名	著者名	出版社名	ISBN	
1	なし	-	-	-	
2					
3					
4					
5					
使用教科書備考					
自作のテキストを用いる					
参考書					
なし					